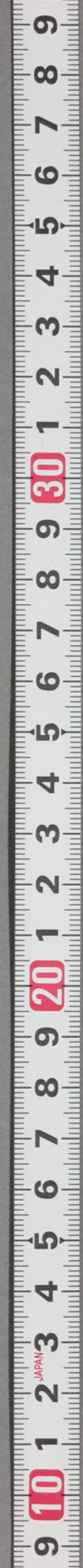




和漢朗詠集註

水



卷第九

丞相 執政

將軍

刺史

詠史

王昭君

妓女

遊女

老人

卷第十

交友

懷舊

述懷

慶賀

祝

惡

無常

白

和漢朗詠集註卷第九

丞相

付執政

丞相トイハ大臣ヲ云

執政トイハ攝政開白等

ヲ申スナリ



季女子妾不衣帛魯人以為義談公孫弘身服布被汲黯譏其

多詐

後漢書文

是後漢書文也上句季女子トイハ魯昭公相

ナリ。相トハ大臣ノコロナリ。利ヲムサボラスレテ。只君ニ忠ヲノミセシ人  
ナレハ家ニ帛ヲキタル妾ナク。既ニ粟ヲ喰馬ナク。府ニ金玉ナカリシ  
ト魯ノ世家。猶左傳ニ見タリ。帛トハスベテ緇ヲ云ナリ。妾トハオモヒ  
モノト云。家ニアル女ヲ云ナリ。魯人ハ魯ノ國人ナリ。義談ハキクカヒ  
アルモノガタリ也。此季女子ガコト左傳ニソレリ。コ、ニホメタリ。斷  
章取義也。言ヲ以テ意ヲ害スヘカラス。下句公孫弘トハ漢丞相也。  
孝武帝ノ時ノ大臣也。極テ富貴ナリシ人ナカス。猶賤寶ヲ惜。貪  
テ。外ハ賢人ノサミニシテ布ヲスミシキタリケルナリ。漢書ニ有

汲黯キツアン是モ人ノ名ナリ。史記云汲黯字長孺淮陽ノ人也。爲人直諫カシコク面牆ノ人ナレバ汲直ト云ニナリ。此人公孫弘クンシヤウガ布被キタルヲ聞テ。實ニ賢人ニハアラズイツハリオホキ人ナリ。只人目ヲカサリテ實スクナシトソレリケルナリ。被字フスミトヨメリ。

百里奚ヒヤクリキ食於道路穆公委之以政ニ甯戚子飼牛於車下ト桓公任之以國ト漢書ニ此ハ漢書ノ文也百里奚ハ人ノ名ナリ。周ノ時虞ト云國ノ太夫ニテアリケルガ。虞ノ國ヲ立ノキテ後イハシカタクミツレケテ。道ノホトリニ食ヲコヒケルヲ。秦ノ穆公カレガ賢ナルコトヲ聞テムカヘトリテ。國ノ政ヲマカセタリケルナリ。史記ニアリト。

向甯戚氏ハ賢人也。齊ノ桓公ニツカヘバヤト思ヒケレドモ。タヨリナカリケレバ商人トナリ車ヲ負テ齊ノ國ニ入レケリ。日暮テ桓公門ホトリニヤドリケルニ。桓公客ヲムカフトテ門ヲヒラキテ甯戚ガ車ヲハラヒノケリ。其時甯戚牛ノ角ヲタキテ歌テ云南山燦々サシクサシク

白石爛々シヤクシヤク中有鯉魚生不遭堯與舜ア禪短布單衣ニ纒至解ニ長夜湯湯ニ何時且微牛ニ苦人何敢駕ニ兵ニカクウタヒケルヲ桓公キテ。此哥ハ只人ニアラストテヨビテ後車ヲセテカヘリニケリ。大臣ニナシテ國ヲマカセタリケル淮南子ニ見タリ。

孫弘閣開無閉客傳説舟忙不借人

宿裴司空  
池亭白

此詩文集二十六ニアリ宿裴相公興化池亭トアリ裴氏ハ丞相亭ヤドリテミツカニ山水ヲモテアソビヒコトヲツクレルナリ。上句孫弘トイハ公孫弘也。漢丞相ニテアリキ東閣ヲヒラキテ賢人ヲ招ケリ後ニ平津侯ニ封セラレ。此古事ニテ孫弘閣ト云閣内中ノ小門ト字書ニアリ。下句傳説ガ事ト草ノ處ニアリ。殷ノ武丁傳説ヲ相トシテ云ク。巨川ヲ渡ラバ汝ヲ以テ舟楫ト爲トイヘリ。此古事ニテ傳説舟ト作リ。孫弘モ傳説モニテ丞相ニテ忙レカリケレバ。今ノ裴丞相ノ舟ヲ借シテ客ヲ遊アソビシムルニ似タル者ナトホメタル心ナリ。

西京席門乃陳丞相之舊宅南山芝澗寧非表司徒之幽栖

清慎公辭攝政弟此八清慎公攝政ヲ辭退シテ時表ノ文也

上句陳丞相トイハ陳平也漢ノ大臣也此人モトハ家貧シテ黃老

學ヲコノミキ其家西京ニアリニ以席爲門ト漢書ニアリ是ヲ西京

席門ト云也下句表司徒トハ袁安字邵公也此人世ヲノカレテ

南山ニコモリ居タリケリ芝澗トハ草オヒタルタニナルベレ後ニ

出ツカヘテ司徒ト云ツカサニナリケリ司徒トハ三公也世ノ政ヲ

イヒケルニ國家ノタメヲ思フニツ子ニムセビナキケリ帝大臣モ

皆此人ヲヨクタクニケルヨシ蒙求ニアリ今言陳平袁安ナドヤウノ

大臣モ席門芝澗ニスリニタメアレバ今清慎公モ閑居セマホレキト

ノコトナリ

周公且者文王之子武王之弟自其貴忠仁公者皇帝之祖

皇后之父世推其仁

貞信公天皇元服後

此ハ小一條太政大

臣忠平公謚号ヲ貞信公ト申ケルカ攝政ヲ辭シ至フ時表ヲ

文時卿ノカケルナリ文粹弟四ニアリ上句ハ史記ニ周公且ノ云

我文王之子武王之弟成王之叔父我於天下亦不賤トイヘルコトヲ

自知其貴ト作レリ下句忠仁公ハ涂殿太政大臣良房公謚号也

ヲ御ムスメ明子文徳天皇ノ皇后ナリシ涂殿ノ后コレナリ清和

天皇ヲウミタテマソリ玉ヘリレカバ忠仁公ハ清和天皇ノ外祖ニ

テオハレニスナリ此ヲトノ世ノ政仁惠アサカラサリシユヘ世オシナ

ヘテ其徳ヲ知タリトノ義也サテ周公且ハ成王幼少ニオハセシ時

攝政シ玉ヒ忠仁公ハ清和天皇七歳ニテ位ニツカセ玉ヒシニ御母カタ

オホキニテ攝政シ玉ヘルコト似カヨヒタバ引合セテカク書ナラベタルナリ

傳氏巖之嵐雖風雲於巖夢之後巖陵瀨之水猶涇渭於漢聘

之初

一條右相府辭左大臣表文菅三品

是一條左大臣雅信公ノ左大臣ヲ

辭シ至フトキ菅三品ニカセテ奉ラレタル表也上句傳氏巖トイハ

上草所ニ見タリ。風雲ハ物ノ根叶ク心ナリ。帝王ノヨキ臣ニアヒ玉  
 へルハ雲ノ風ニ會ヘルガ如シ。是ヲ感會ト云。殷ノ武丁ト云帝智  
 夢ニ見玉ヒテ後傳説ヲ尋得テ用ヒ玉ヒシカハ云ナリ。下旬嚴  
 陵瀨ハ嚴陵ハ嚴光字子陵ト云人也。後漢ノ光武帝ノ末位  
 ツキ玉サリシ時。ミロサレアル人ニテハシベリケレハ。光武帝ニツキ玉ハ  
 イカニモ賞セラルヘカリケルヲ思ワステメニツカウ事モナカリケレハ  
 子陵孤亭山下云山ノホトリニカクレテ。釣シテゾアリケル。其比ニ天變  
 アリシニ天文ヲツカサトルモノ奏シ申シケルハ。君ノ故人ヲワスレ玉ヒ御  
 アヤマリニヨリテ。コノ性異ハ侍ルナリト申シケレハ。帝ノ玉ヲヤウ。是嚴  
 子陵ガ事ナラ。我アヤマリニケリトテ。御使ヲタテラレケレトモ。三  
 マテカヘ奉リテマイラザリケリ。其釣セ所ヲ嚴陵瀨ト云。帝  
 ミツカラ其所ニミユキアリテ見タメハ。子陵タカクフシテアオキス  
 帝床ノホトリニヨリミシテ。朕ヲナテ。陵ナゾウラムル朕サラニ

ワスレストノ玉ヒテ。同車ニセテカケリ玉ヒヌ。其後ハ陵トトモニ卧給  
 ケリ。陵足ヲモテ帝ノ御腹ノ上ニツキタリケレバ。太史奏シテ容  
 星御座ヲオカセリト申ケレバ。帝ノ玉ハク。故人子陵ナリ。クルシミア  
 ラレトゾノ玉ハセケル。故人ハフルク相シル人ヲ云フ。後漢書ニ見タリ  
 漢聘ハ漢皇ノメスヲ云ナリ。涇渭ハスミニコルナリ。涇ハスミ渭ハニコル  
 三タヒ勅ヲカヘシ。又ハ同車シキタリテ。或ハソムキ或ハシタカヒナドセシ  
 ヲ涇渭タリト云ナリ

春過夏闌表司徒之家雪應路達且南暮北鄭大尉之溪風  
 被入知 同上 此ハ上下同表也。意又上同。春スキ夏モタケヌ。今ハ

表司徒ガ門ノ雪モ消テニチモ通リス。ラニ彼ヲ尋イタサルベシ。朝ハ南  
 風吹暮ハ北ヨリ吹。鄭大尉ガ谷ノ風ヨニカクシナク人皆シリ。是皆  
 ヤシゴトナキ賢人ナリ。早く尋子サセ玉フシ愚身ハイトニツタメハラ  
 ニト云心ナリ。表司徒ハ上ニイヘル表安ナリ。漢ノ時大雪フリテ深サ

一丈余ナリケルニ洛陽令トテ都ノ奉行ニツカラ見アリキケル  
 ニ人家ニテ雪ヲハラヒケリ。袁安ガ宿ニイタリテ見レバ道モ見エ  
 ガリケレバ袁安ハステニ死ニケリト思ヒテ人ヲレテ雪ヲハラセテ  
 カヲ押開テ見レバ安タフレ卧テオキスサスガニ一ニダ生タリケ  
 バ令ノ云フイカテカクテハアルゾト問ケレバ安答云。大ニ雪フリテ  
 人ニテウヘタリ。我ヒトリレカラサラニヤト云ケリ。其賢ナル事世ニ  
 キコエテ司徒ニ至ニケリ。後漢書録異傳ニ見タリ。下句鄭大  
 尉トハ鄭ハ姓名ハ弘字ハ巨君會稽山陰人也。其家溪ノ南ニアリ  
 其北ニ白鶴山ト云山アルニタキツコリケリ。其谷ヲハ若耶溪ト  
 云フ。舟ノリテ此谷川ヲワタルニ風ハゲシク波アヲクテユキワツラ  
 コト限ナレアルトキ山ニテ矢ヲ一筋ヒロヒタリケリ。ニハアリテ  
 アヤキ人來リテ其矢ヲ求メケレバトリ出テトラセタリケルニ  
 悅テ云ク汝ノ思フコトヤアル我カナヘト云ケレバ弘カ云ク我薪ヲ

トフニトテ此川ヲ渡ルニ風ノ不定事ナシ思事ニテ侍ルト云ケレバ  
 彼人ノ云クイト安キ事ナリ我ハ此山ノ神ナリ朝ニ南風ヲ吹セテ  
 フキヲクリ暮ニ北風ヲ吹セテ吹フクラレニト云テ去又是ヨリ  
 後谷ノ風朝ニ南暮ニ北ニテフ子ノワタルコトイトヤスカリケリ。今  
 世ニテモ吹トゾ。帝キコシメテ大尉ニサセ給フ。大尉トハ此國  
 太政大臣ニアタル官也。後漢書傳ニ見タリ

或は信云

道盛家集詞云ふとれとや乃とととの櫛の毛清後  
 おうりまうとよりしととほほえはあつ月輪も借雲良日跡之  
 とく清右今集よ入そらふも清信云月輪もの花をゆりたる  
 内とゆりたると詞をよめて道盛乃のあまなりとれとや乃  
 ととととハ即ち政大臣を指し清盛を清信と云ふなり  
 大鏡云これ忠平のよととの一男よおうりまう清母ハ寛平

はるるの清しむとあり大后の位あて廿七歳より下執政攝政同白  
 一あひく二十歳やあふくんとこ板敷のんもまうり  
 ごとくあまうりて板敷とあふくんとこ板敷のんもまうり  
 あくまてあまうりてあふくんとこ板敷のんもまうり  
 おもひあまうりてあふくんとこ板敷のんもまうり  
 相乃あまうりてあふくんとこ板敷のんもまうり  
 清信とあふくんとこ板敷のんもまうり  
 秋といふ所の古後よあふくんとこ板敷のんもまうり  
 もこまあまうりてあふくんとこ板敷のんもまうり

將軍

將ハヒキユトヨム軍ハイクサナリニ万五千人ヲ軍ト云ラ  
 アミタノ軍兵ヲヒキヒミタカヘテ乱國ヲ征伐スル職ヲ

云ナリも將帥トモ云ナリ

三尺劔光氷在手一張弓勢月當心

陸將軍贈  
 李都使

此詩心ハ武士ノ有様ヲ作レリ上句ニ三尺劔トイハ上ニイヘル漢  
 ノ高祖ノ古事也氷在手トハツルギノサヘタルヲ氷ニタトフルナリ  
 下句ハ張ル弓ハ半月ニ似タリ公子ノ前ニ横タタレハ月公子ニ當  
 レリト云ルナリ

雪中放馬朝尋跡雲外聞鴻夜射聲

重和扶風差  
 人活潑白

此詩モ武士ノ事ヲ作レリ上句ハ周ノ代ニ管仲字ハ夷吾類木ト  
 云所ノ人ナリ齊ノ桓公ニツカヘテ上卿トナレリ桓公北ノ方孤竹ト  
 云所ヲ征シタルニ管仲モミタカヘリ此日大ニ雪フリテ道ヲ失ヒテ  
 ケリ多ノ軍兵トモユクスツイツチトヒルモノナシ桓公大ニウレフ管仲  
 心カレキモノニテ云ケルヤウ老タル馬ヲハナチテソレが行カン方へ行  
 ヘト云ケリ教ケルニ老馬ヲハナチタリケレバブルサトノ道ヲ得タ  
 リケリ韓非子ニ見タリ今ノ句此意也下句魏王ノ臣ニ更羸トイフ  
 モノ虚發トテ虚空ニ矢ヲハナチテ鳥ヲイルコトヲ得タリ折ニモ王

前ニテ雁ノ東ヨリ西ニ過ル聲ヲ聞テ更羸ヤカテ鹿發シテ射カ  
トシケリ其心ヲ作シリ此ニツノ古事ニテ將軍ノシワザヲイヘリ  
千里往來征馬疲十年離別故人稀贈河東虞將軍許渾

此詩ハ河東ノ虞將軍ト云人遠キ國ニ下リテ侍リケルニ送ケル詩  
ナリト上句千里往來ト遠ニチヲキカヨヒテ乗ユク馬ノツカレタルト  
云ナリト下句ハ他國ニアリテ十年ヲ經タリケレハ昔シリト人稀  
ニナリトタリト云ナリ

隴山雲暗李將軍之在家穎水浪閉蔡征虜之未仕

清慎公薛左近

大將表 此清慎公ノ左大將ヲ辞シ玉ヒケル辞狀也上句隴山ト  
菅三品 此清慎公ノ左大將ヲ辞シ玉ヒケル辞狀也上句隴山ト  
イハ李將軍ガ過ユラホリテコモリ居タリ山ナリ雲暗トハ雲深  
心ナリ李廣ハ漢武帝ノ時ノ人ニテ敢帥將軍トナリテ大宛ヲ伐テ  
其地ヲ平ゲテ隴西ニ家居セシト漢書ニアリト下句穎水トハ所  
名ナリ蔡征虜トハ人名也荆洲ニ蔡辛ト云モノアリキヒトナリ

賢ニシテ文學ヲコノミキ夏ノ禹王ノ時相公ノ官ヲサツケントノ  
タミヒシカバ辞シ申テ云堯舜ノ代ニ罰世サレ臣民ヲノツカラト  
ノホリ人ヌスミセサリシカトモ食キ彼二帝ハ心大ナルコト虚空  
如シ徳天地トヒトシカリキ君ハ御心クワレクシテ大事ヲワスレタ  
ヘリトシテ以テ罰ストイヘトモ罪人タヘスガハ世ニ封食セシト我心  
ラストイヒテ深キ山ニ入ニケリ禹王ハチテ七日食レタハザリキ委  
十洲記ニアリ此人穎水ニコモリ居タリシカハ浪閉トハ云ナリ今  
言ハ大將ハ武官ナレヨニカヤウノ武士トモコモリ井テ侍リカレラ  
ツカフベシ臣カツカサフハヒスヘキナリト申ス心ナリ或云カヤウノ武將  
ニテワタクシノ居ニコモレリ我身モシカ侍ラント云也云云

職列虎牙雖拉武勇於漢四七將學抽麟角遂味文章於管二  
十篇右親衛藤亞將

粹九并一物集ニアリ上句虎牙トハ近衛府也大將ノ帝王左右



侍フ、虎ノ牙ノ如クナハル也。漢四七將トイハ後漢光武皇帝ト申シ、  
 帝王莽ト云シ惡人トタカヒシ至モシ時帝ノ御方ニ九八人ノ將軍  
 有シナリ。拉トカレラフモ物ノカスニサハル心ナリ。下句麟角トイフ  
 麟上ノ聖人ノ世ニ出ル仁獸アリ。ヒタヒニツノ角生タリ。仍ミテ物  
 フハ麟角ニタトフルナリ。本文ニ云學テ者ハ牛毛ヨリモシゲク得  
 者ハ麟角ヨリモシナリトイヘリ。仍此ノ文章ヲ麟角一喻也  
 魯ノ九篇上ノ論語ヲ云也。武官ニアリナカラ文道ヲメシナハ  
 ノイニシキヨレホメタルナリ

雄劍在腰拔則秋霜三尺雌黃自口吟亦寒玉一聲

和哥所別當

親衛中郎將 奉行序 順 此ハ天曆御時後撰集エラハルベキ義アリテ能  
 宣元輔登城時文源順等五人ヲ梨臺ニヲカシ謙德公伊尹蔵人  
 少將トキコエケルヲ和哥所ノ別當ニナサセ玉ヒケルニ震筆宣旨  
 ノ奉行ノ文ヲ源ノ順カキケル也文粹十二ニアリ。上句雄劍トイハ

ヨキツルギナリ。干將莫耶雌雄ノ劍ノ古事ヲ用タル詞ナリ。武  
 官ノ人ハ太刀ヲハケバ在腰ト云也。秋霜三尺トハツルギノサエタルコ  
 トヲ秋霜ニヨセ。漢高祖ノ三尺ノ劍ニヨセテ三尺ト云也。下句雌黃  
 トイハ玉ノ名也。王衍之詞如雌黃トイヘリ。今言此人ノ和哥文章  
 從口玉ヲハクガ如ク也ト云ナリ。寒玉一聲トイハサエタル玉ノ聲ア  
 リト也。孫興ガ天台山ノ賦ヲ友人ニシラス時試ニ抛地可有金玉  
 聲ト云レコトヲ本文トセリ

雌黃劍影便逃死馬惡衣香欲啣人

送李將軍 都良香

此詩ノ心ハ將軍ノ威ヲホメタリ。上句ハ禹王ト聞エシ帝江ヲ渡リ  
 玉ヲニ黒龍フ子ヲサレハサニテ舟スムコトヲ得サリケルニ禹王  
 ツルギヲ打振給ヒシカハ雌劍ノカケヲ見テニケサリニキト崔豹  
 古今註ニ見エタリ。此意ヲ作ルナリ。下句ハ魏文帝ト申シ御門  
 ハ限ナク馬ヲ愛シ玉ヒケリ。御符ニ出ニサントテ。御馬ヲヒキタテ

タルヲ朱建平ト云相者ニ此馬相セヨト仰セラレケレウキ見テ  
イニジキ御馬ニテハ侍トモタ、イニ死スル相コソ侍ト申シケレハ  
帝何故ニカサレモ只今死ナニトニコトシクモオホサテ。此馬ニラニ  
トシタニニ。御衣ノ香カウシキニ馬驚テ。帝ノ膝ヲクヒタテニツ  
リケレバ。帝イカリテツルキヲヌキテサレコロシ王ヒテケリ。魏略ニ  
見タリ。此意ヲ作レナリ

かくもあつてもせあをねまがふとあきまがうやあつんとはひ急  
後撰集詞去よ云小野好右衛門酒の玉のうての使ふまうりて  
ことせとりよと一四位よをまうりたるるるるともあつた  
るりおまねむぐらふまうりよとけれよたるるるのやまうりね  
よととまうりまをくりてゆるるるのくりこののうとふまを  
てはうとまうりまをば事大和物語よとまこととまがさりま  
乃時このつひよまをばくおまてくまうりたるるとま未雀

院許字天香をさかりよ。伊藤の若系体有叛道とくつて保城  
とちりくつ付。ま付子のあめ。小野好右の少お退捕凶賊使を  
着くああり。おむむまうりま。公補任かまふえたりまの  
とまれ事ちるべ。お匣とまおろく。よまを。あまなうらな  
どうまん抱個。あまあうらと。いま好吉又位なれハ組の袍を  
ままあうらこととつり。執乃んま付子の使よゆま。よまを  
あつたり。まを。五位のまあうら。あつんとおまをさり  
四信よ叙して花田まをらるるま。お成とつる。將軍の職を  
軍兵をまをらるるま。あまを。乱をま。免征ま。事あうら。お  
少お退付使よ。あま。比の事と。あま。公忠乃ま。あま  
ま。あうら。あま。

刺史

受領ヲ云也。後漢書云外十二州每州刺史一人六百

石トアリ。註三武帝ノ時初テ刺史十三人ヲ置ト見タリ

依テ國守ノ唐名トセリ

士女笙歌宜月下使君金紫稱花前

早春憶蘇州 寄夢得 白

此詩註寄夢得トアリ。文集三十一アリ。上出タル霞光晴後詩次句也。上句士女トイハ受領ノ相具シタル女也。倡女ノタタヒナリ笙フキ哥ヲウタヒナドスルガ月ノ前ニハコトニ面白キナリ。下句使君トハ受領也。ムカシ裴俠ト云人河北ノ守トナリタルヲ獨立使君ト云シト秘笈新書ニアリ。金紫トイハ衣裳ノ飾ナリ。一説金印紫綬トテ高官ノシレ也。是三公ノシレトモ使君ヲタツトミテカリ用テ作シリ。言ハ此使君ノ威儀ノ花ノヘニヨク調ヒカナヒテイニシキトホメタルナリ

精明合浦珠相似斷割昆吾劍不如

贈李尚書 白

此詩ハ受領ノミツリゴトヲホメテ作シナリ。上句精明トイハクハシラキラカナリ。心ノクモリナクアキラカナルコトハ合浦ノ玉ニ似タルト

云ナリ。合浦ノ玉ノ事上月ノ所ニアリ。下句斷割ハコトハリワカズナリ。タミノ説ヲコトハリワカツ事ハ昆吾ノ劍ヲ以テモノヲキルヨリモミサレト云ナリ。昆吾ハ山ノ名也。越王勾踐トイヒ人。昆吾山ノアカハ子ノ色火ノ如クナルヲエテツルギニ井ニト思テ白キ馬ヲモテ昆吾ノカミヲ祭リテ。欽洽子ト云モノヲレテハノツルギヲナシ井サセテ侍リケル。其中ノ弟ハノ劍ヲハ直剛ト名クゴレヲモテ玉ヲキリカ子ヲタチ土木ヲキサニケツルトイヘリ。吳越春秋ニアリ。又周穆王ニ昆吾ノ人劍ヲ奉レリ。玉ヲキルコト泥ノ如シト百詠ノ註ニイヘリ。合浦珠ハ伯周ガ合浦太守トナリシ古事也。斷割モ民ノ訟ヲワカツコトニテ皆刺史ノコトニヨリタバ此題ノ下此詩ヲ入ラレタリ

雖三百萬莫強辭邊土不是醉鄉此一兩句可重詠北陸豈亦詩國

源順能登守刺史赴在時饒別序 保覽

此序ハ源順ガ能登守ニ成テ下



此詩ハ楚ノ項羽本記ヲ題トセリ。項羽ハ天下ニナラビナキ武將也。身ノ長ハ八尺ガカナクアグ。漢ノ高祖ト天下ヲ諍ノ事九箇年共間陣ヲ張テ相戰事七十餘度戰ゴトニ項羽皆勝ケリサレドモ張良ガ謀ニテ漢ノ韓信彭越ト云二人ノ大將殺下ト云所ニテ數萬騎ニテ項羽ヲカコミニケリ。夜更テ漢ノ軍兵ノ中ニ楚ノ哥ヲウタフコエシケル。項羽聞驚テ漢ニナリ已ニ楚ヲ得タル故ニ楚ノ兵漢ノ方ニ多キナルト思ヒテカヲウシナヘリ。是ヲ史記夜聞漢軍四面皆楚歌トアリコニ項羽ノ寵愛ノ妾人アリ名ヲ虞氏トイヒ。項羽ノ名馬アリ。名ヲ騶ト云キ。項羽夜起出テル帳ノ内ニテ酒ヲ吞テ悲ニウタヒテ詩ツクリテ云ク。力拔山兮氣蓋世時不利兮騶不逝。騶不逝兮可奈何。虞兮虞奈若何ト數返ウタヘリケル。虞氏ナク和シテ云ク。漢兵已屠地四方楚歌聲大主意氣盡賤妾何聊生トウタヒケル。項羽モ數行ノナニダヲコホセリ

カクテ終ニ東城ト云所ニオチユキテ漢ノ兵呂馬童王翳ト云モノニウタレテウセヌ。項羽本紀ニ委ク見タリ。力ハ上句燈下ニテ虞氏別ヲ惜ニテ數行ノ涙ヲ流シタル心ナリ。下句ハ夜更テキケル。四方ニ圍ミシ漢ノ兵ノ中ニ楚ノ哥ノ音ノニキタリシ心也。作者橋相公ハ廣相ナリ

賓雁繫書秋葉落牡羊期乳歲花空

賦 蒯武 紀在昌

此詩蒯武ヲ題トセリ。蒯武ハ前漢ノ人也。漢武帝ノ時李子陵ヲモテ大將軍トシ。蒯武ヲモテ副將軍トシテ北方凶奴ト云フ。且ビスヲ討ニツカハセリケル。帝ノ軍破レテ蒯武凶奴ニトラシメケリ。凶奴蒯武ヲカレツキテ上相トナス。又公主トテ凶奴カレヅキケルムスメニアハセントシケレドモ。武ツイニ隨ハサリケル。イカリテ武ヲナヤスコト二年形ヤセツカレテワツカニ命ハカリゾアリケル。又武ヲシテ北海ノホトリニヒツジヲカハセケル。武書ヲカキテ雁ノ

頸ニツケテケリ。雁飛テ長安ヲ過ルニ漢帝ノ殿ノ庭ニオトレツ  
 帝トリテ見至ハ武ガ文ナリ。武ハ未死ザリケリトテ。更ニ廿  
 人ノ使ヲ遣シ金ヲモテアカイタマフ。其使未ユキツカサルニ武  
 カヘリマイリニケリ。又雁札ノ本文内典ノ中ニアリ。過去月蓋王太  
 子ニ善友太子ト云人アリキ。弟ノ惡友ノ爲ニマナコヲ損セラレテ  
 諸國ニ流行スルニ善友太子ノ母書ヲ書テ善友太子ノ飼ケル  
 雁ノクビニツケタリケレバ太子ノ所ニモチユキケルコトアリ。報恩  
 經ノ第四卷賢愚經第二卷ニアリ。今此詩上句ハカノ雁札ノ  
 心也。秋葉落ハ其時節ノサマヲ云也。下句ハ匈奴武ヲトラヘテ羊  
 ヲカハセテ牡羊ノ子ヲウミタラントキ汝ヲカサント云レナリ。牡  
 羊期乳ハ此意ナリ。歲華空トハ羊ノ乳ヲモコトハアリカタキコ  
 トナレ空々年ヲ經タリト云ナリ。十九年マテアリシガハカタクニ也  
 他日遂逃秦虎口暮年初謁漢龍顏

賦叔孫通  
 紀納言

此詩叔孫通ヲ題セリ。叔孫通ハ薛ト云所ノ人也。ハジメ文學ヲ  
 モテ秦ノ二世ニツカヘタリ。陳勝ト云モノ謀叛ヲオコシケルトキ  
 諸ノ儒生評議シテコレヲ謀叛人ナレ兵ヲモチテ討トルベシト  
 云フニ二世愚癡ニシテ怒リハラタチケレバ叔孫通ワサトコレハ謀  
 叛人ニアラス盗人ナレヤカテ郡奉行ナトメトリテマイルベシ  
 トイヘリケルニ二世喜テ廢美ニ帛ナトトラセケリ。ミナ人叔  
 孫通誅ヘリトテアヤシニケレバ叔孫通ワレ虎口ヲマヌカシタメゾト  
 云テヤガテニゲサリテ楚ノ懷王ニシタカヒヌ。後漢高祖ニ降參  
 シテ。漢ノ天下トナリケル時漢ノ群臣ニ宴ヲ王ヘルニ酒ヲ飲テ軍  
 功ヲアラソヒテ。醉狂ノアマリニミタリニサケヒ。劍ニテ柱ヲウチ  
 キリナドシテ。ミタリガハシカリケレバ高祖ウヘ王ヘルニ魯ノ諸生  
 三十餘人トウガ門人百餘人ト。朝議ノ礼ヲ誓古サセテ。漢  
 正月ハ今ノ十月ナルニ。長樂宮ト云御殿ニテ。其礼ヲ行テ群

臣天子ヲ拜セシメ。法ヲタムシケテハ。群臣酒ヲノムドモアヘテ誼  
譁シテ礼ヲウレナフモノナカリケリ。高祖ヨロコビ至ヒテ吾人自  
皇帝ノ貴キコトヲシリヌルトノ至ヒテ。叔孫通ヲ太常ト云官ニナ  
シ金五百介ヲ給ヘリ。至テ宗廟ノ儀法ニ至ルマデ。漢ノ諸ノ  
儀法ハ叔孫通ガ太常トシテ論ビアラハストコロナリト史記ノ  
列傳ニアリサテ此詩ハ此意ヲ作レルナリ。秦ノ虎口トハ上ニ見  
タル虎口ヲヌカレシタメスト云ヒコト也。漢、龍顏トハ漢、高祖ノカホ  
ノコト上ニ見タリ。諸ハ對面スルコトナリ

わがわがのつらふあそびとあつらんことをあがりねはたさむで物徳  
は秋日中紀神代卷よふ伊弉諾伊弉冉の二神怪子成うとあそ  
ぶよ惟己三歳脚猶不立とある事なりをいかりわがわがの父母の  
事なりとあつらんつらむねのみこといざらむのみこととあつて  
つら。これをせまてあそびさねむつらとあつとあつらんとは

物徳ハ大に物徳ノ男。後江相公とつらこれと日中紀ハ吾人乃史  
記るれを海史のときあそびとあつらんつらとあつらん

王昭君 王昭君トイハ漢元帝ト申ス帝ノ宮女也本ノ名ヲバ

王明君トイヒケリ。漢ノ文帝ノイニナニル、ニヨリテ改メテ

昭君ト云也。三千人ノ義人ノ中ニ其形第一ナリ。胡ノ國ノ

王ト云也。漢ト和睦スルニ漢王ノムスメヲエト

イヒケルニ。漢王宮女ヲムスメトテツカハサントスルニ。二千ノ佳

麗ノ中ニ形ニニクカラフヲアタフベシ。二千ノ美人見盡スベキニ

アラス。其名形ヲ繪ニカキテマイラセヨト仰セ出サレケレハ

三千人ワレモくとサマぐノ寶ヲ畫エニトラセテ形ヨクカ、セ

ケルニ。王昭君ハ我形ヲタノミニテ。其ノイナヒラセザリケレハ  
畫エコ、ロエス思テ。王昭君ガ形ヲニニクキ躰ニカキケリ。帝  
御覽ニテ。王昭君ヲエヒスニタマフベシト仰ラヌ。已ニツカハス時

御覽スハマコト二世ニアリカタキ羨人ナドモ君子ハ二言ナキ  
コトニテトメ玉フニアタハズ。エビスコレヲ得テ都ヲ出テハカ

二胡塞ノ三千ニカヒタリ。上ニ見ユ

愁苦辛勤頓頓盡如今却似畫圖中

王昭君白

此詩文集十四ニアリ。昭君カ胡國ニテウレノ心ヲ作り。愁苦辛  
勤ト愁ノ切ナル心也。頓頓盡トハユカレカシテタル貞也カヤウニ衰ヘキハ

ニスル。今ハカヘリテ彼見ニク、カキナシタル繪ノ形ニ似タリト云也

身化早為胡朽骨家留空作漢荒門

王昭君紀納言

此詩ハ昭君ハカナク失テ後ノ事ヲ作シ。身ハ胡塞ニウツモレテヨ  
モキガモトニクナルカバ子トナリ。家ハ漢朝ニ留リテムクラノ門ト云レ

ハテタリト云ナリ

翠黛紅顏錦繡粧泣沙塞出家鄉

發句後江相公

此詩王昭君ヲ賦セリ一首四韻皆入レリ。是發句也。翠黛紅顏ハ

翠黛紅顏ハ

羨女ノ形也。錦繡粧トハニキヌイモノナトヲキタルヨソホヒナリ

沙塞ハ胡國ノ境也。窈窕タルスカタヲモテ泣クハ胡塞ニ向ヒテナ

ヒ都ヲイツル心ナリ

邊風吹斷秋心緒隴水流添夜淚行

同胸句

是ハ胸句也。邊風トイハ邊土ノ風也。秋心緒トハ愁心緒ト云事也。胡

塞ノタヒソフ風スサミシクモノアヒナルニウレノハラワタタエヤスキ

心ナリ。下句隴水トハ都ト胡トサカヒニ隴山トテ大ナル山有。其

山ノ山川ナドヲ隴水ト云ナルベシ。フルサトヨフルナミタノ隴水ノ流

オチソフ心ナリ

胡角一聲霜後夢漢宮萬里月前勝

同腰句

此腰句也。上句胡角トイハ胡國ノナラヒアカツキニ角トイハ笛ヲ

フクナリ。霜後夢トハ笛聲ニ霜夜ノ夢サム心ナリ。下句漢宮トハ

漢ノ都ナリ。意ハミヨコフハ万里ノ外ニ隔テ、月ヲナカメテ心ヲ盡也



昭君若贈黃金賂定是終身奉帝王

同未

是ハ落句也昭君モ金ヲモテ盡シマイナヒテ送ラミカバ身ヲ終ルミテ君ニツカヘテカルウキメラ見サランモノヲトナリ

身埋胡塞千重雪眼盡巴山一點雲

王昭君源英明

此詩ヨツマノ本ニ脫セリ上句胡塞ハ胡地ハ北國ナリ巴山モ胡地ノ漢土ノ境ニアル山也昭君朝夕漢ヲ慕テ巴山ノ雲ヲ見ツクスサマナリ

數行暗淚孤雲外一點愁眉落月邊

同義人眉似片月英明

コレモ昭君ガウレノ心ヲ作リ上句ハ雲并ルカニ都ヲオモヒヤルニ數行ノナミダコボヒテ目モクラキ心ナリ下句ハ入カタノ月ニ分ヒテ古郷ヲ戀ルウレノムラタタルサマナリ

あびされぬる時多き人もるれねとみとるくま方  
けいびきハ山の松樹とてさく人もたそをのぞなくとハよ

あそびされぬるの事とつひと下りし王昭君が胡よよひと  
ゆきておぼろの晴海と孤雲のゆふとわあざりし事  
とさあつたなりし

妓女

妓女トハヒビメナリ。羨色ノ女ニ舞ヲハセウタウタハ

世管絃ナトサセテ酒宴ノ興ニモテアソブコトナリ

容貞似舅潘安仁之外姪氣調如兄崔李珪之小妹

遊仙岫文

此ハ遊仙窟文也此文ハ張文成ト云人唐ノ皇女ニ夜

アヒ奉リテ後レツ心ナク思ヘトモ恐レテ色ニモイデス心ヒツニ思ナゲキテ過レケルヲカク思トイカテヒラレ奉ラント思テ仙境ニ遊テ仙女ニアヒテ忘ガタキ心ヲカキツラ子テ遊仙窟ト云文ニ作りテ世ニヒロメケリヨノ人ハタニツクレル文ト思ケリ皇女ハ我事ヲツクレリトナシテ至ヒケルナルベシ此文ノ心ハ張文成河ノ流ニツキテフカク山ニ入テ思カケヌ仙宮ニイタリテ

女ニ案内ヲ問ケレバ彼女其所ノ仙女十卿ト云ケル人ノアリサ  
マヲホメフケリテカタリタル詞ナリ。上句容貞ト八十郎ガカタチ  
ナリ。潘安仁トハ晋ノ羨丈夫也。羨丈夫トハオトコノ形ヨキヲ云也  
安仁ガ事委ハ上ノ用ノ所ニアリ。マコトニ潘安仁ガハカタノメイ  
ナルニハアラス。安仁ガカタチスグレタリシ人ナレバ詫シテカク云ナリ  
安仁市ヲ過シ色好メル女トモ來アツマリテ。珠シキ菓子ヲ安  
仁ガ車ニナゲイレタリシコト傳ニアリ。崔季珪トハ名ハ崔琰宗  
季珪ト云ケリ。清州ノ東武ト云所ノ人也其カタチ人ニスグレタ  
リケリ。コレモ仙女ヲホメントテ崔季珪ガヲトイモフトニアコノカ  
三三似タルト云ナリ。十郎ハ仙女ナレドモ妓ガ羨色ヲ用ルモノナ  
レ。只羨人ノコトニツキテコニ此文ヲ入ラレシナリ

外人不識承恩處唯有羅衣染御香

題宮詞也元稹

題宮詞トハ宮中ノコトヲ作ル詩ヲ云也此詩ハ妓女ノ帝主ニ寵

セラレ奉ルヤウヲ作リ。上句ハ人シテ又君ノ恩寵ニアツカレト  
アハレニオボユル事ヲ云也。下句ハ綺羅ノ衣ニ我君ノ御ウツリ  
香ヲシメルノミゾ。御カタミニテアルト人シテ又心ノウチニ思ヒ出タ  
ルサニナリ

嬋娟兩鬢秋蟬翼宛轉雙蛾遠山色

井底引銀瓶

此ハ文集樂府ノ井底引銀瓶ノ文也。上句嬋娟トハウツクレキ  
也。秋蟬翼トハ鬢ノウツクレキハサレキサレヲ。蟬ノ羽ニタトヘタル也  
魏ノ文帝トキコエシ帝ノトキメテタキ宮人アリシ。名ヲハ其樹  
トイヒキ。其人ノ事ヲ云ニ其鬢如蟬翼トイヘリ。崔豹古今註  
アリ。下句宛轉トハメグル心也。雙蛾トイハフタツノ黛ヲ遠山ノ  
色ニタトフルナリ。コレモサシテ舞ヒメノ心ハナケレドモ羨色ノサレナ  
レハコニ入タリ

莫怪紅巾遞面咲春風吹綻牡丹花

別後寄羨人白

此詩ノ心ハ妓女ノ紅袖ニテ面ヲサシカクニテ丑ミタルヲ牡丹花  
春風ニ綻ビタルニテアリト云也。莫怪トハ牡丹ニアラストアヤム  
ベカラス悉皆只牡丹ノ花ノゴトクナルトノ心ナリ

李延年之飭族託一妍以始飛衛子夫之待時在衆醜而亦異

李家樂師 此京上句李延年トハ人名也李夫人カ兄也此人  
身ニ才アリテ又舞ヲイニシクマイケルニ我イモウトノ李夫人

カ形ノヨニスクレタル事ヲウタヒテ舞ニケリ。其詞云北方有佳  
人絶世而獨立一顧傾人城再顧傾人國トウタヒケハ漢孝武  
帝ト申ス帝キコレメテ是ハ何ナルモノヲウタフニカト御尋アリ  
シカハアル人潜ニ申サク。延年ニ妹侍リ。其ヲ申スナリト奏シ  
ケレバメテ御覽スルニ實ニアリカタキ羨人ナリ舞ナトヨク  
シケハ寵ニ給ヒケリ。委ハ漢書外戚傳ニ見タリ。飭族トハ族ト  
ハ親族ナリ。ガノ妹ヲヒキタテトキニアハスルヲ云ナリ。託一妍

以始飛トハ一人ノ妹ノ形ヨキニヨリテ。我身モヨニアヒヌト云心  
也。妍字ハカホヨシトヨムナリ。始飛トハ始テ出身スルヲ云也。下  
句衛子夫トハ衛皇后字子夫コレヲ衛子夫ト云。漢ノ武帝  
ノ后ナリ。其形勝タリ。彼人モトハ平陽公主ノ家ノ謳者也。哥ウ  
タヒテ有ケルナルベシ。帝公主ノ家ニミユキヒタヒテ。子夫ヲムカテ  
都ニカヘリ。王ノ公主子夫ガセナカヲウチテ云。モシ貴クナラバ我  
ヲワスルコトナカトイヒケリ。後ニ三男一女ヲウメリ。時ノ人  
ウタヒテ云ク。男ヲウミテ悦ブコトナカレ。女ヲウミテ悔ルコトナ  
カレ。衛子夫ヲハ見スヤトゾ云ケル。史記ニ見タリ。待時トハ本イヤ  
シカリシ人ノ時ヲ待得テサカヘタリシ心ナリ。在衆醜而永異トハ  
此人衆人ノミタクキナカニアリシカハ一入スグヒテ見エテ幸久ク  
コトナリシトナリ

秋夜待月纔望出山之清光夏日思蓮初見穿水之紅艷

催粧  
序昔

此賦菅家文章五ニアリ。註三催粧トイヘル。女ノカホニ粉黛ヲホ  
コスヲ云ナリ。言ハ女ノケサウシテ出タラケシキ。月ヲ一ツニ山ノ  
端出ルヒカリヲノゾミ。蓮ヲ思ハニ水ノオモニハシメテヒラキタラニ  
色ヲ見シコ、チナニスルト云ナリ

算取官人七色兼粧樓未下詔來添 詞韻

コレ同序ノ詩也。一篇四韻皆入ラレタリ是發句也。上句官女中ニ  
七色兼タルハ誰カトカツヘ出ス心ナリ。七色トハ七能ト艶色トナリ  
トハ舞ヲモヨク一ヒ哥ヲモヨクウタフヲ云ナルベシ。色トハ形ヨキヲ  
云ナリ。下句ハ君ノメシアリテケサウシタリト樓ヲ已ニオリトスル  
ニ猶ヲソシトテノ宣旨重リ來ル心ナリ。寵ノフカキユナリ。或云多粧  
樓トハカサヒ舞臺ナドナルベシ。妓女粧ヒテ樓臺ヲオリトスルニ  
ナヲ一ニルキヨシヲ宣旨クタリソフ心ナリ

雙鵝且理春雲軟片黛籠成曉月織 胸

此ハ胸句也。上句ニ雙鵝トハ左右ノヒツラナリ。春雲軟トハスベテ  
ヨキカミヲハ雲ニ喩ル也。理トハツクロフナリ。片黛トハカタクノニミ  
ナリ。御門類ニ召ニヨリテイノカハニキニカタニユカリ先カキタル  
心ナリ。曉月織トハ眉ノ下リサ、曉ノ月ノ織キヤウナルナリ

羅袖不遺廻火尉鳳釵還悔鎖香奩腰句

此ハ腰句也。上句ハ綺羅ノ袖ニハノヨリタルヲノシテキルヘキニ類ニ  
召アハ火ノシラメクラスニアタハスト云也。文集ニ金斗尉火波云云  
下句鳳釵トハカサレヲ鳳凰ノ形ニツクヒナリ。言ハババク召アハ  
鳳釵ヲフカクコメヲキケル事ヲ悔ナリ。トリ出ニケケレハナリ

和風先道薰烟出珍重紅房透翠簾 落句

此ハ落句也。上句巴ニ粧成テ妓女ノニイルサナリ。和風トハ人ノ形  
ハ見エズシテ。ツタキモノノ風ニホヒ出タル心ナリ。下句ハ紅衣ト  
ノミヨリスキテ見ユルサ、也珍重トハメツラシト云也。文章ニハ透

玉簾トアリ

嬖寒錦帳長熏麝惡卷珠簾晚着銀

此詩昔ヨリ題作者不知或管ニ品ト云リ。詩ノ心ハ彼女ノ來ラ  
待侘タルサレナルベシ。上句ハ彼妓女ノ帳ヲカゲテ夕衣裳ニ  
麝香ヲ薰ビテ出モヤラヌコトヲキラフ上云也。下句ハ夕衣ノ簾  
ニキテカニガシサステテソク出ルコトヲニクムト云也。

欲宛今日新饑饉泣買先朝舊賜箒

老命婦詩  
後近相公

此詩ノ註ニ内教坊老命婦トモアリ。内教坊ハ土御門ノ北大官  
堀河ワタリニ有。女樂ナト習フ所ト云リ。命婦ハ女ノ五位已上ニ  
ナリタルヲ云フ。官女ノ老タルヲ老命婦ト云也。或說ニ昔三條  
命婦ト云レ女若カリケル時淳和御門ノ恩寵ヲ蒙テ大水瀧上  
云琴ヲ給ケルヲ年老テ後アサレテオチフテ其琴ヲウリ  
テ飢ヲタスケタリケルナリ其心ヲ作レリトイヘリ師說ニソレ

ニテモアルベカラストゾ新饑饉トハ侘ツ、モカツク、適ニ來タルモ  
ノ、始テ渴飢ニ及フヲ云ナリ饑饉ハカクトヨム。飯ヲカキコト也  
飯ニウヘタルコトヲ饑饉ト云也宛ルトハ其飢ヲヤムルワケニアテ  
行フ心ナリ先朝ハモトノ帝ヲ申ス也舊賜トハモトノ夕ニモノ也  
今日ノウヲ助トテナク先帝ノ夕ニハリタル琴ヲウルトナリ  
悲キワガナルベシ妓女ノ老衰ノサレ哀ニ侍ルニヤ

あまののせもれおひびり吹くちよとあ乃の姿志も〜とめ人の姿志  
在ふ新よふ又昔は乃の姿志とんく〜とありま言は法下云け  
被レ乃の姿志をひ〜の天女よ〜とませりさまをいふ乃の姿志  
ありひ〜とませり〜と吹くちよと強り志〜とひひ〜と  
てとあをねんさあえたりあまち乃の姿志よん〜とあ  
む只乃の面白〜とあま〜と昨夜まけ〜とあ乃の姿志  
つづ相殊傍り又言乃の姿のありま〜とあ乃の姿志

みまを天武天皇存野乃るふおろしきりくく時琴ひをまひ  
くねを神振山よ天人のあまらざり舞々事とついで毎  
年十一月のまひ根と沙流りト多事

遊女

秋水未鳴遊女佩寒雲空浦望夫山

寄所思佳人賀蘭暹

此詩賀蘭暹が集ニアリ註ニ寄所思佳人ト有上句佩上玉ヲ  
ツラヌキテ女ノ腰ニヲフルナリ帯ノヒラヲ是也水ノ音ノ三キコ  
エテ我思フ人ハヲモノヲナラシテイマタ來ラスト云也下句八只  
ムナク寒雲ノ望夫山ニタナビケルハカリナリト待人ノキタラス  
折ノ當意ヲイヘリサテ彼女モ我ヲ思テ望夫山ノ石ノゴトク  
ヤアルラント思ヤル心ヲ含メリ博物志ニ顏霍トイヒ人大將軍  
トシテ秦ノ國ヲウチニ行テ三年ニテカハラサリレカハ其女戀  
シタヒテ秦ノ境ニゾミテ悲ニナキケリ終ニ命ヲハリテ石ト

ナレリ是ヲ望夫石トイヘリ抱朴子ニモ秦女石トナルトアルハ  
コレニヤ

翠帳紅閨萬事之禮法雖異舟中浪上一生之歡會是同

遊女序 此ハ遊女ノ序也伊豫守遠古が任國ニ侍リケルニ以  
以言 言相共ニ下ルトテ河尻ニテ作ルトナリ意ハ翠帳紅閨内ニ  
テトッケル貴女ノアリサニ思タクラブレハ悉アラヌサニナレトモ  
舟ノ中浪ノ上ニモホトニ隨フタノシヒハ同ジコトナリ世ノ中ハトテ  
モカクテモ同ジコトヨメル意也万事之禮法トハ嫁娶ノ六礼ヲ  
云ナリ六礼ハ納采問名納吉納徵請期親迎也儀礼ニ悉シ

家交江河北岸心通上下往來船

詠遊女源順

此詩ハ下ト同詩也遊女ノアリサニヲ作ルハ明也

和琴緩調臨潭月唐櫓高推入水烟

上句和琴トイハアツコト也其絃六ツアル也潭月ハサソ月也

和琴ナドシラヘ井タル遊女ノサミナリ。下句水烟トハ水上ノ煙也  
遊女ハ唐ニ楓橋漢水ノホトリ。我朝ニモ江口神崎川尻ナド大  
方水邊ニアリテ舟ニ乗井ルモノナレバカク作ルナリ

あつるものよほるる世を洗はぬあまの子たねの宿を空めど  
新古今に野しうむと人不知と入りてあつるものよほるる海  
をふかき世つづくに世のつ子の残しきかたをいふをまじも  
まじかたをいふに世のつ子の残しきかたをいふをまじも  
く接ぎあふあつる物るれいさうくをありさうまうま  
つふゆへをいふあつる物るれいさうくをありさうまうま

老人

昔為京洛聲華客今作江湖潦倒翁

晏坐閣 吟 日

此詩ハ文集十五ニアリ白居易唐元和十一年ニ九江都司馬ニ  
ウツサレテ被作タルナリ昔ミヤコニアリテ君ニ仕へ奉リし時ハ

樂ミサカヘニホコリシカトモ今テ罪ヲ蒙リテ江湖ニアルトキ賤  
オチフレタル翁トナリタルト云也聲華トハハナヤカトリト云ムナリ  
潦倒ハオチフレタルト云ムナリ

老眠早覺常殘夜病力先衰不待年

白 睡覺

此詩文集二十八ニアリ註ニ睡覺トアリ上句年闌又ハ霄ニ眠テ  
ワガテ曉ヲマタスレテ目サムルモノナレバ夜久ク殘リテ明シカタニ  
ト云也下句病ニオカサレテ氣力衰ヌハ身ノ衰ヘ老年ヲ待ヌト云也  
再三憐汝非他事天寶遺民見漸稀 贈康 叟 白

此詩文集十八ニアリ居易ハ唐ノ第九ノ代宗ノ代ニ生テ第十  
六ノ帝武宗ノ時會昌五年ニ七十六ニテウセ玉ヘリ天寶ハ第七  
玄宗ノ時ノ年號也康叟ハ天寶ノ比ノ人ニテウセコリタリケ  
レバカク作ル也フルキ人皆失ハテタルニ君ヒトリノコリト云  
テハハハニナシ思ト云ヘルナリ

紅榮黃落一樹之春色秋聲結綬抽簪一身之壯心老思

右大臣薛左大臣表 菅三品 此ハ一條左大臣雅信公左大臣ヲ辭セラ

ル表ヲ菅三品ノカケル也言ハ一ツウヘキノ春ハ紅ニサカヘ秋ハ

キハミオツルヤウニ一身ノ若クサカナル時ハ君ニ仕ヘ老又レハ官

ヲ辭レ世ヲ遁ル心也結綬トハ綬ハヒラクニトヨム公卿ハ紫

綬ヲスフ也コレ君ニツカフル心也抽簪トハ頭ノカサリヲトリ

スツルナリ是世ヲ遁ル心ナリ

少於樂天三年猶已衰之齡也遊於勝地一日是非老之幸哉

在衛卿尚齒會序菅三品 此ハ上ノ山家所ニモアル尚齒會ノ序也文粹

九ニアリ此朝第二度ノ尚齒會也初ハ貞觀年中ニ大納言南淵

年名郷此會ヲ行フ序者形部卿菅原是善郷也次ニ安和二

年三月十三日大納言藤原在衛卿此會ヲ行フ此度ノ序者

菅三品也上句ハ白樂天ハ七十二ニシテ唐ノ尚齒會ニテヘリ菅

三品ハ六十九ニテ此朝尚齒會ニアス樂天ヨリ少シトイヘドモ

猶老衰ノ身也ト云ナリ下句尚齒會所ヲ勝地ト云ナリ衰

タリトイヘドモ今七八翁ニツラナリテ此佳會ニアヒタルコトコレ

老ノ幸也ト云ナリ

太公望之遇周文渭濱之波疊回綺里季之輔漢惠商山之月

垂眉 壽考策文 此ハ壽考策ノ文也上句太公望トハ上古ノ

賢人也周文王ト申ス帝渭濱ト云所ニカリシタマヘルニ史編ト云

モノウラナヒ申シケル様今日ノミカリニ熊ニモアラス熊ニモ

下ラス君ヲ御師タルヘキモノヲ天ノアタフヘキナリト占申シケレ

文王ニ日イモ井シテ渭濱ニカリシタマフニ呂望ガ茅ノ上ニ居テ

釣スルニアヒ玉ヒヌ呂望トハ太公望也ツ井ニ同車ニノセテ都ニ歸

給又波疊回トハ呂望ガ年ノ老タル顔ノシハヲ云也下句綺里季

トハ商山ノ四皓ノ其一也前ノ雲ノ所ニアリ漢ノ高祖ノ后呂太后



良言集卷之九  
惠帝ノ母也。又戚夫人ト云人ヲ高祖限リナクオボシテ其腹ニ親王オハシケリ。名ヲ八如意ト云。趙王トソ云ケル。后腹ノ孝惠帝ハ春宮ニ立タヘリケルガ心バハラカニ人ヲアハレムコト限リナクオハセリ。戚夫人腹ノ親王如意ハ心スグクシクオハシケリ。母夫人ヲカキリナクオボスユヘニ春宮ニタテカヘトシタマフヲ留侯張良ト云賢キ大臣イサメ奉リケレドモ叶ハサリケルニ張良ハカリコトヲカマヘテ都ヨリ南ニ商雒山ト云山アリ其山ニ賢キ四人心ヲ一ツニシテ籠リ居タリケル所へ春宮孝惠ノ御使ニテ此大臣張良ノニツカラユキテ彼四人ノ人ニアヒテ春宮ノ御心ハノイミシクオハシメシテ公タチラムカヘ奉ラントノ玉フト礼ヲアツクシ詞ヲイヤレシテ云ケレバ此人々山ヨリ出テ親王ノ宮ヘミイリニケリ。又帝御アソビアリケル時春宮ワタラセ玉ヘト有ケルニカノ翁ノ四人アヤレキサマシテ御供ニ侍リケレバ帝アヤレ

玉ヒテカレハ何者ソト仰ラレケルニ東園公角里先生綺里季夏黃公ト申スモノナリト云ケレハ帝キユシメシテ春宮タテカヘンノ御心オボシトミリケリ太子ハ羽翼ステニナレリウゴカシカタレトソ宣ハセケル史記ニ見タリ此心ヲ作ルナリ月垂眉トハニユレロキサマナリ今言ハカヤウク老人皆奉公ノ忠ヲツクセリト云心也江帥菅三品云。面豐渭濱之波眉垂商山之月ト可作云又叶短廬云云  
**水無返夕流年淚花豈重春暮齒粧** 尚齒會詩 菅三品  
此詩ハ菅三品ノ序カレタリシ時ノ詩也六韻ノ詩也此第三ニテ句也上句水无返夕トハ文選云逝者如流水云云流年淚トハ年波ノナカレテトミラヌヲカナシム心也下句花豈重春トハ文選云時无重至花不再陽トイヘル心ナリ暮齒粧トハ老ハテシヨハヒノアリサトノ心也水ノカヘラヌカゴトク花ノフタヒサカサルカゴトク

老オトロヘユクカナシヒライヘルナリ

林霧拔聲鶯不老岸風論カ柳猶強

同前

此詩ハ上ト同也第四句也。都テ我身ノ老衰タル心ナリト上句ハ  
我生ハ晩春ノ鶯ノ聲ヨリモ老タル心也霧ニヨスルコトハ咽霧山鶯  
トナルヨセナリ。下句年老テカヨキコト弱柳ヨリモナラニサレリト  
云ナリ。或説云菅ニ品少兄雅規朝臣云強字誠強云云三品云  
又イヅレ字ヲカ用ヒ侍ルベキ。雅規朝臣倩案ニテニコトニナカリ  
ケリトナニヒケルト云云

醉對落花心自靜眠思餘筭淚先紅

同前菅

此詩上下同座ノ會也。上句ハ醉ノウチニ花ノチルヲ見ハ。若キ時  
ヤウニイサム心モナクツレクナリ。カク心ノ老果タルハイクハクノ年ニ  
ナリタルゾトニツカニ餘命ヲカゾフハ纒ニ未近キ故涙モ紅ナリ  
ト云也眠トハツツカナル心ナリ

中ノ鏡そとらう新よひひわて刃る時より老しぬ相違さるるこれ躬恒  
躬恒家集并捨き集乃のありけ秋乃刃る時よりとけり  
と一先くおとろさたるんありうつくしくとも月ををくりまて  
もか老をもとろざりしあひまかみみの新をたたくひりの面  
新もちくともろへりりおとろもも新ともおとろもも  
ふんあられうさうや

いづくよりかともよせまう世中に老をいとねんしとろれをあれ  
新しと老人あいつとせられをいづくももかをよせんしとせと  
るくくんと人へのハおとろ

和漢朗詠集註卷第九

和漢朗詠集注卷第十

交友

琴詩酒友皆拋我雪月花時最憶君

寄殷懌律白

此詩文集二十五寄殷懌律トアリ註叙江南舊遊トアリ殷懌律トモト江南ニテアソヒシコトヲ思出テ別テ後ニ送ラレタル詩也上句白居易ハ琴詩酒ノニツヲ友トセシナリ此ヲ北窓ノ友トイヒシ年若キ時ハ常ニ此ニ三携ビ友モヲノツカラ有シニ年老ヌハ其詩酒ノ友モ皆我ヲ見ステタハ拋我ト云也サハ雪月花ノ面白キ折節ニ最舊遊セシ殷懌律ノコトヲノミツオモヒイツルト下句ニイヘリ

陽春曲調高難和淡水交情老始知

報張十六負外以新詩見寄白

此詩文集二十二ニアリ張十八負外カ新詩ノ卷ノ後ニ題シテ元微之ニ寄セタル詩也上句陽春曲調トイフハ郢中ノ歌ノ曲ナリ

郢ト云所ハ楚國ノ都ニテ歌ヲコノミウタフ所也。依テ歌ヲハ  
 郢曲ト云フ。始下里巴人ト云曲ハ和スルモノ數千人也。陽阿薤  
 露ト云曲ハ和スルモノ數百人也。陽春白雪ノ曲ハ和スルモノ數  
 十人スルニ至ス。是其曲弥高シテ和スルコト弥寡ト云文選ニアリ  
 高難和トハコノ心ヲ云テ。張十八カ詩ノ及カタクコトヲホムル  
 心ナリ。下句淡水交情トイフハ本文也。君子ノ交リハ淡シテ如水  
 少人ノ交リハ甘シテ如醴云云言水ハイツトナクアキ味ニテカハル  
 コトナキ也。君子ハ人トカタラフコト常ニ同様ナルナリ。醴ハカキ  
 ナクアキナクモ。後ハ必々味ノカハル也。小人ノ交リハ其ヤウニ始  
 コクシテ後ハ必ウトクナルナリ。然シ淡水ノ契リナリケリトハ老  
 ノ後ニシテララル。年老マレバヨロツノ人ノウトクナルニ君ノミヨソ昔  
 ミニテオハレセバト云也。是ハ元微之ヘイヘルナルヘシ  
 昔年顧我長青眼今日逢君已白頭  
 贈狎衛  
 許渾

此詩上句ハ阮籍ト云人親キ人ヲ見ルニ青眼ヲ以テ見  
 者ヲミルニ白眼ヲ以テ見ニナリ。世説并ニ晉書ニ見タリ以  
 此意作歎或云不尔青眼トハ少キ姿也云云下句我身年  
 老テムカシク友ニアヘル心ナリ

蕭會稽之過古庸計締異代之交張僕射之重新戈推為忘年  
 之友  
交友序後 此ハ交友序也。上句蕭會稽トハ會稽太守  
江相公 三テ蕭氏ト云レ人也。吳季札ト云レ人ノ賢ナリニ事ヲ友ヒテ  
 其墓ニ行テ常ニ遊ビトセシ人也。異代トハ世ハコトナレ志ヲ  
 同シテ交ヲ結ブ心ナリ。下句張僕射トハ僕射ハ大臣ノ官也。張  
 公ト云レ大臣也。此人ト云レ人ヲ重クシテ濟湯ノ江惣ト云レ人  
 才賢コカリカバ友トセシナリ。新戈トハ江惣八年少クシテ戈ニ  
 トメリカバ新戈ト云也。忘年トハ張公八年老テ相似ガレトモ  
 年ヲワスレテ相トモナヒトナリ

裴文籍後聞君父管礼部孤見我新

茂

此詩ハ渤海ト云國ヨリ裴文璆ト云人此國ニ來リケルニ焉  
茂朝臣ヲクセル詩ナリ。上句ハ昔此裴文璆ガ父ノ裴文籍ガ此  
朝ニワタレリケルニ焉茂ガ父管丞相詩ヲ送り給ヘルコトナリキ  
其コトヲ思ヒテ裴文籍ノ後サル人オハスト聞ワタリテ又ク成  
スト云ナリ。下句管礼部トハ父ノ管丞相ヲ作り奉レリ。礼部ハ  
治部卿ノ唐名礼部尚書ト云也。裴文籍ノ來リシ時管家治  
部卿ニオハシケルニヤ。亟相ウセモテ後我身ニテゴニテ。君ニ云  
テニニエヌルト云ナリ

と云と云いさる事と驚りるん昔の世を志すまわかれ村に製  
け欵親友乃交り乃あさうぬとありどうとあひてい  
くさうもいさるお世の變何ん志すまわかれと也新子  
載集よんぞいさる人志すまわかれとあてゑの部よ入る

いさる事と驚りるん昔の世を志すまわかれ村に製

惟と云もあつ人よせんさの松とむいーのなるうなくふお系具  
さる山の越くろくと家長乃松と。堂雅云とれとむいーの  
とる人よせんとおりす。さる松の松とむいーの物とぞれと  
うさるものさりてもなうてさけさるいさると回をと幕  
いさるり古今集雜奇なり

懷舊

昔ノ世ヲ忍ビ思フヲ云也

黄壤誰知我由頭獨憶君唯將老年淚灑故人文

白氏文集

題故元少君 此詩ハ文集ノ二十一アリ。上ノ遺文二十軸ト  
同時ニ故元少君ガ文集ノ後ヘニ悲ノ心ヲ入テ二首ノ詩ヲ作り  
給ヒ其一也。初句ニ黄壤トハ黄泉也。冥途ヲ云也。左傳云天  
玄地黄泉在地中故言黄泉云。今言我ハ此元少君ノウセタルヲ  
コヒレトモ黄泉ニテハ我カク思フコトヲモシラジト云也。次句ハ我

ノミヒトリカク老テ君ガ事ヲミタフト云ナリ。文集六白頭徒憶君トアリ。次句ハ唯老ノ涙ヲモテ遺文ノ上ニソクノミヲ事トスルニテアルト云ナリ。

長夜君先去。殘年我幾何。秋風滿袂淚。泉下故人多。同

此詩ハ文集三十一ニアリ。微之敦詩晦叔ト云ニ人ノ友相次テウセタルヲ傷テ二首ノ詩ヲ作リシ其一ツ也。初ノ詩云併失ヲ鵝鸞侶ト云。此詩ノ心ハ生死長夜ノウチニ君達ハサキダチテサリニキ。我獨殘留リテ。殘ノ命トテサノミイツマテカアラフト云也。秋風滿袂淚ハ秋風ノウチ吹共一入物悲ク淚ト云。各々ニ昔ノ友ヲカソフハ其數多クナリタリト云也。泉下モ黄泉ト云ト同ジコトナリ。

往事渺茫都似夢。舊遊零落半歸泉。贈微之二十七韻。白。

此詩文集第十七ニアリ。樂天ノ友元稹ニ澧水ノ邊ニテ別テ後

五年シテ夷陵ト云所ニテ遇テ。三宿語リ別ニ送レナリ。上句ワカタサカリナリ。昔ノ事ハカスカニシテ夢ノヤウニオホユト云ナリ。下句ハモトアソビナレタリ。人々多クハ方々ニオチリ別テ。半ハ又黄泉ニキウセタリト云也。渺茫ハカスカナル心。零落ハオチケレタルナリ。

蘓州船故龍頭暗。王尹橋傾雁齒斜。問江南景物。白。

此詩文集二十七ニアリ。上句ハ白居易モト蘓州ノ刺史トナリテフ子ニリテイタリ。其舟今ハフリハテソレトモ見エヌコトヲ龍頭暗ト云ナリ。龍頭。橋首ナド。舟ヲ云也。次句ハ王尹ハ橋アル所名ナリ。雁齒。橋ノ名也。橋板ノナラビツラナルコト。雁ノ齒ニ似タト云也。橋傾ト云。傾ノ字妙也。是モ古クナリ。弁マナリ。

金谷醉花之地。花每春白。而主不歸。南樓翫月之人。月與秋期。而身何去。右大臣報恩願文。菅三品。此ハ右大臣報恩ノ願文也。上句金谷ト云

金谷園也。晉石季倫ト云人花樹ヲ多ク植テ愛之園也。今言花ハ  
 千リテモ春ヲムシバニ咲白ヘトモ去ナカク去テ又ト歸ルニトテ  
 ト云也。金水ノ流レイツル谷ナスイフトソ初學記ニ見タル。次句  
 庾亮字元規ト云モノ。南樓ヲタテ、月ヲ翫ヒシナリ。今言月ハ  
 秋ゴトニカハラ子トモナガメシ人ハ影モ見エスト云也。石宗庾亮ニ  
 言テ今ノコトヲ云テカヤウニ生死無常ノ世ナハ早榮耀ヲ捨テ  
 菩提ニオモクベシトナリ

王子晋之昇仙後人立祠於候嶺之月羊太傅之早世行客墜  
 淚於岷山之雲

安樂寺廟 序源相規

此序筑紫ノ安樂寺菅丞相ノ

御廟ニテ作文侍リケルニ肥後守源相規ガカケル序也。文粹第  
 十三アリ。上句王子晋ガ事上ニアリ。此人仙ヲ得テ去テ後侯  
 氏山ニ歸リ來テ笙ヲ吹タリシ所ニ後ノ人カガ爲ニ祠ヲタテタ  
 リシナリ。祠ハ廟堂也。下句羊太傅ハ羊祐字雍伯洛陽安

里ノ人也。此人孝養ノ心深クシテ又身ノ戈モ有ケリ。其名アハ  
 レテツイニ太傅ニ至リニケリ。父母ウセニテハ元終山ト云山ニ葬  
 シテ父母ノ爲ニコト命ハ惜カリツシ今生テ何ニカハセントテ身ヲ  
 ナケテ失ニテノ其德ヲ碑文ニ作りテ岷山ト云山ノ麓ニタテ  
 タリケル。手カフ人皆碑ヲ見テ涙ヲ流シケリ。仍墮淚碑ト  
 ハ名ケタリケル。其意ヲ作りステ言今菅丞相ノ廟モカク  
 王晋羊祐ガアトウヤウニナアル事ハ異ナレドモオモキハカラズト  
 云也。或云此序ヲ誦スルトキ安樂寺ノ靈廟震動セシトカヤ

促齡良木其摧歎遺愛甘棠勿剪誦

美入野

此詩上句促齡良木トハ促ハ迫也。催也。早世ヲイヒトテ促齡ト云  
 也。良木トハ此ウセタル人。英戈ノ器量アリシコトヲ良木ト云ナリ。  
 ヨキ木ハ必ス人ニ剪クタカハ物ナレバ此人ノ早世ヲ歎クコトヲ比シテ  
 云リ。莊子ニ文木ノ粗梨橘柚ノタクハ其能ヲ以テ折ラ泄シテ





專諸荆卿之感激侯生豫子之投身心為思使命依義輕

後漢書

此文 此ハ後漢書ノ文也專諸荆卿侯生豫子ハ四人ノ名也

皆主君ノ恩ヲ思テ命ヲステレ人也專諸ハ伍子胥ニ相隨テ  
恩ヲ蒙リケリ吳ノ公子光ト王僚ト中アケテ互ニコロサント  
ケルニ公子光ガ子胥ヲ語ヒケハ專諸ヲヨビテ公子光ニ告タ  
リ專諸謀ヲモテ王僚ヲムカヘケリ王僚ガ軍兵王宮ヨリ專諸  
ガ家ニテ道ニヒミナクミテリ然レニ專諸ヒ首ヲアフリタル中  
カクシテ王僚ニススケリ王僚不知シテ魚ヲクハントスルニ專諸ヒ  
首ヲトリテ王僚ヲサシコロシヒ首トハ一尺八寸ノ劍ノ頭ノヒニ似  
タルナリ僚ヲコロストイヘトモ僚ガ兵ニウタレニケリ吳ノ大伯ガ世  
家ニ見タリ荆卿ハ荆軻也秦始皇焚於期トイヒケルモノヲニク  
ミケルニ於期燕ノ國ニオリケリ荆軻ト二人云合テ燕ノ太子丹ノ  
為ニ始皇ヲウタニハカリコトヲナシテ於期ガ云我太子丹ノ為ニ

命ヲステテ我カウベヲトリテ始皇ニ奉リ其ウチトケタラン  
ニ可討也ト云テ自ラカウベヲハ子テウセヌカクテ荆軻秦舞  
陽ト云者ヲ具シテ其首ヲモチテ秦ノ國ヘキヌ又燕ノ國ノ圖  
ヲモチテ今ハ此國ヲ君ニ奉ラントイヒケリコニ始皇心トケテ  
出テアヒ玉ヲニ荆軻走リカリテ始皇ノ袖ヲトラヘテサシコロ  
サントス始皇ノ王ハク今ヒトタビ婦人ノ琴ヲキカシバラクムヨト  
宣ヒケハバラクオサヘタルニ婦人琴ヲヒク其曲ニ七尺ノ屏風ハラ  
ドリコエスベシ羅綾ノ衫ハキレヌヘトヒキケハ始皇サトリテ袖ヲ引  
キリ屏風ヲコエテ逃ノカニケリサテ荆軻ヲコロシ太子丹ヲ亡  
ホミケリ侯生ハ魏ノ隱士侯嬴ト云者也年七十ニシテイヤク貪  
キモノナリシヲ魏王ノ弟信陵君酒ヲニウケテ侯生ヲ迎ヘ礼ヲ  
厚クシテ上客トス侯生カク信陵君ノ臣ヲ敬フ心ヲ見トケテ  
又朱亥ト云モノヲスマテ客トナサシメタリ秦ノ國ヨリ趙ノ國ヲ

圍之時信陵君が姉嫁趙ノ平原君書ヲツカハシテ魏ノ圍へ救テ  
請ヒニ信陵君コレヲ救ントストモ手勢スナカリシニ疾生謀ヲナシ  
テ魏ノ將軍晉鄙ヲ朱亥ニ鉄椎ニテ打殺サセテ晉鄙が軍勢カラ  
信陵君ニツケタリ。サテ信陵君其軍勢ヲ引具ニテ趙ノ救ニ出  
立ニ疾生云ク臣モシカヒイルケドモ老テタヘカタシト云テ自ラ  
劉子ニ死タリ。豫子ハ晉ノ大夫豫讓是也。趙伯ト云人ノ臣也。趙  
表子ト云人アリテ智伯ヲコロシテ其カウベニ漆スリテ水ノ器ニ  
シタリケレバ豫子心ヤミシク思テ表子ニムクヒセトテソレガ廁ニカクレ  
居タリケルニ表子廁ニ入ラントスル時胸サハギノヒケレバ人ヲ入テ見  
スニ豫子ツルギヲモチテカリケレバガラストリテコロサントスルニ先  
君ノ事ヲ思テカクスル志ノアリテ感ジテ其罪ヲ宥ニテ追放ス  
後ニ又豫子身ニ漆スリテ癩トナリ。灰ヲ飲テオモトナリテ橋  
下ニフテ表子ヲ殺ントウカヒケレバ表子カノ橋ヲワタラントスルニ

馬スノスアヤシニテ人ヲレテ橋ノ邊ヲ見スルニ豫子又アリ。表  
子ガ云ク初ハ義ヲ以テ汝ヲユルシツ今ハ元スヘカラスト云ケレバ豫  
子ガ云臣敢テ死ヲイタニス願クハ其御衣ヲタハラント云ケレバ  
表子衣ヲ脱テトラセタリケレバ大ニ悦テツルギヲスキテ衣ヲ  
ナケツ、ニゴヨドリテコレヲサシテケリアル書ニハソノ衣ヨリ  
血流レタリ。臣イリサテ劍ニ卧テ自ラ死ニケリ。皆史記ニ見タリ  
感激トハ其恩惠ニ感スル心ナリ。投身トハ身ヲナケウチ捨レコト  
ナリ。今言、恩ヲカウフリヌハ心ハソレニツカハレヌ義ヲ思フ故ニハ  
命モ惜カラヌ物ナリト云也

范蠡收書為踐乘扁舟於五湖各犯謝罪文公亦逸巡於河上  
後漢書文 此モ後漢書文也。或云是ハ澄明カ策ノ文也。後漢書  
文ハ非也。云可勘之上。向ハ上ノ雲ノ題ノ所ニ有。收書トハ臣タルモノ  
ノ責ヲ怠ラス忠切ヲツクスコト也。扁舟トハ小舟云也。下。向各犯

晉ノ文公ノ舅ニシテ臣下ナリ。文公ノ父獻公驪姫ガ讒ニヨヒテ太子申生ヲ殺シ文公ヲモ殺シトシケル故ニ。文公趙衰咎犯等五人ノ賢士ヲ友ガヘテ他國ニ逃ノカレテ十九年ヘテ秦ノ國ヨリ文公ヲタスケテ晉ノ國ニ入テ國主トナセリ。カクテ文公國ニ入玉ウ時河上ニ至リテ咎犯ガ申スヤウ。臣君ニシタガヒテ天下ヲメグリ侍リシ程過チヲ仕リシ事多カリシ自ラダニ其過ヲ存知タレバコソハ君モシロシメシケン。是ヨリ御イトシテ玉ハラシ罷去ナント云ケバ文公ノ云ク。若國ニカヘリテ咎犯トトモニセサルコトアラバ。河伯照覽スレトノ玉ヒテ。スナハチ璧ヲ河中ニナゲイヒテ折言ヒタマヘルコト左傳見タリ。遂巡トハタチモトヲルナリ。是范蠡咎犯ゴトキ忠臣モ君誅ヲオソレシコトヲ云文ナリ。其故ニ此述懐ノ所ヘ入ラタレナリ。其磧礫不窺玉淵者未知驪龍之所蟠也。昔其弊邑不視上邦者未知英雄之所纏也。

文選吳都賦左大仲

コレハ文選ノ弟五左大仲

吳都賦ノ文也。ハミ第四卷ノ蜀都賦ニ西蜀ノ公子蜀ノ國ノ山川險阻ナルコトヲ稱羨セシカバ此賦ニテ吳ノ王孫アサケリテ吳都感ナルニシカジト云ルコトヲイヒシ詞也。磧礫トハ淺キ水ノ沙石ヲアラハセル貌也。玉淵ハ水ノ深キ所羨玉ノ出ルトコロナリ。驪龍ハタマノ龍ノ名ナリ。言ハ西蜀ノ公子ノ習フトコロ淺クシテ此水ノ淺キカ如我國ノ玉淵ノ深キガコトクナルヲ不知トナリ。莊子千金之珠在九重之淵驪龍領下ト云心也弊邑ハヤブタルサト也。上邦ハ上國同シ。英雄ハ百千人ニモコエタル人也。言ハ蜀タゞ其弊少ノ邑ニシ習テ。上國ヲ見ズ英雄ノ行歴スルトコロヲモラストアサケリシ心ナリ。人間禍福馬難料世上風波老不禁。詠懷。此詩ハ文集二十七ニアリ。歳暮ニ詠懷トイヘリ。上句ハ人ノヨメルニ何ニヨリテ禍アリ。何ニヨリテ福アリト云コトヲ愚ニシテ難辨ト云也。下句ハ世ヲフルコトハアラキ風分ケシキ波ヲシクグヤウニシテ

憂ケトモ老ノ世ニテモコレヲエヤメヌト云ナリ。

車前驥病駑駘逸架上鷹鷂鳥雀高

寄當途李肇  
秀戈 許渾

此詩ノ意ハ賢人ノ世ニナキ時愚者ノ英雄タルコトヲソヒナリ。上句驥トイハ駿馬也。一日千里行馬也。大國ニ馬ニ車ヲカクルナリ。駑駘トイハキマソキ馬也。ヨキ馬ノナツム時ハニブキ馬ノホコル也。下ノ句架上トハ架ノ字タカボコトヨムナリ。鷹鷂ノ翅ヲオサメテタカホコニミツマリタルトキハ小鳥翅ヲノシテ高ク飛也。コレハ皆ヨキ人ノナキ時イヤレキ者ノホコルニタトヘタルナリ。ヨリテ述懐ノ所ニ入ラレタリ。事事無成身也老醉卿不去欲何歸。此詩文集十七アリ。醉吟二首ノ内ノ一也。言若キホトサズノアラミハアリシカドモ終ニ何事ヲナセリトモナクテ既ニ老ノヨハヒナリタリ。モハヤ今ヨリハ弥何事ヲカナサシ。只醉卿ヲ不去ヒテ

何ノ所ニカ行ント云ナリ

范蠡收責掉於扁舟而逃名謝安辭功鞭孤雲而養志

述懷  
後江

相公 コレ述懐ト注ニアリ。范蠡ガ事上ニ有。收責モ上ニ註ス。逃名トハ功成名トケテ身退ク心也。謝安トハ晉ノ賢人也。字公安。石ト云キ。陳ノ國陽夏ト云所ノ人也。常ニ臨安ノ山中ニ住シ。丘谷ニアソヒテ心ヲ自由ニシテ明ニ暮シケリ。帝其カシキコトヲキコシメテメシケレドモヒサシクウケサリケリ。晉書ニ見タリ。鞭孤雲トハ山林遊ブ心也。養志トハ吾心ニミフルマフ也。ガハル人々ノアリサミワレモ面白ク思フトノ心ナリ。

昇殿是象外之選也俗骨不可以蹈蓬萊之雲尚書亦天下之望也庸戈不可以攀臺閣之月

直轄  
申文

コレハ橘ノ直轄ガ民部

太輔ヲ望申タル申文也。上句ハ昇殿トハ五位已上ニ叙ノ殿上ヲ云サルコトヲ云也。象外トハコトヲ世ノ外ト云事也。殿上トハ仙宮

タトヘテ象外ト云也。仍昇殿ハ象外ノエラヒニテ。其人ニアタル  
事ナリト云也。俗骨ハ仙ノ相ナキモノヲ云ナリ。仙ノ相アルモノハ  
金骨ト云ナリ。シカハ金骨ヲエラヒテ屏殿ヲバ元サル、事ナハ  
我身ハ俗骨ニテ仙洞ニソムベキモノニアラズ然レハ蓬萊ノ雲ヲフム  
ベカラスト云也。下句尚書トイハ辨官也。此又要官ニシテ天下ノキホヒ  
ノソム事ナハ短セノ身ハ思ヒカクベカラスト云ナリ

齡亞顏駟過二代而猶沉恨同伯鸞鳥歌五噫而將去

安會序  
權正通

此ハ弟ニ親王ノ宴會ノ序也。言吾身ノソムニスルコトヲウレタルナリ  
顏駟トハ人名也。顏回ニアラス。此人ヒカレコカリシカドモ連ノツタナ  
ク下ニ三代ノ君ニステラタリシナリ。漢ノ武帝ノニキシタマフニヒトリ  
ノ老即アリヒゲモカニモコトニ白シ。帝問玉フヤウ。イカデアカク老ヲ  
ミテ世ニモアハデアヤレキサニテハアルゾトノ玉ハ駟答テ曰文帝文  
ゾコノニ玉ヒキ臣其時武ゾコノニキ。景帝ハ老タル者ヲ好ミ玉ヒキ

臣其比若カリキ。君ハ年ワカキモノヲ好メ玉フニ臣ステニ老タリ  
故ニ三代ニ不遇ト申ス。武帝アハレニテ會稽ノ都尉ト云官ニナセ  
至フ。漢武故事ニアリカノ顏駟ハ老ノ身モツイニ用ヒラレタリ。我  
身ハ三代ヲ過テ猶ソシハテト云也。下句伯鸞トイハ梁鴻字、  
伯鸞博學ナル人ナドモ家貧シカリキ。東開ヲ出テ京ヲ過テ五  
噫ノ哥ヲ作りテウタヒケリ。噫字於其反。恨聲ナリ。和訓六ナケキ  
トヨメリ。其歌曰。陟彼北芒兮。噫。顧覽帝京兮。噫。官室崔嵬兮。噫。人  
之劬勞兮。噫。遼遼未央兮。噫。コノ哥五ツ噫ノ字アハ五噫ト云ナリ  
終ニ吳國ニ至リテ。阜伯通ト云モノ、家ノホトリニアヤレキサニシテ  
有ケルヲ。伯通アヤレニテ。家居ヲアタヘタリケハ。鴻書ヲヒラスコトナ  
餘篇ニテサリニケリトイヘリ。後漢書ニ見タリ。此心ヲツクヒナリ  
或人云時ノ人此序ヲ見テ誰モアヤレニケリ。果シテ正通妻子ヲ  
ヒキ井テ高麗國ニワタリテ。其國ノ宰相ニ成ニケリ。後ニ高麗ヨリ

商人ノ來リテ云ヤウ。彼國ノ人ハ日本ハモクセス國ニヨ有  
ケト云ラトゾカケリケル。或云正通六條具平親王ニイリテ  
カキタル序也。爲憲齊名等其席ニアリテ。此句ヲ聞テ。正通思  
事ノ待ルニソ。此序ノ心アヤク待ルトシタゴ申シケリ。サテ  
カヘリテ。其曉ニ高麗ヘワタリニケルトゾ

言下暗生消骨火咲中偷銳刺人刀

春道

此詩意ハ人ノ心ノウラオモテ有テタタニカタキコトヲ作レリ。昔キ

コトバヲモタムヘカラス笑ル顔ニモウチトクベカラスト云也。消骨火

トハ古語云衆口融金積毀消骨云。刺人刀ハ文集云咲中。有刀

潛殺入ヲトアリ。コレラノ語ヲ用テ作レリ

載鬼一車何足畏掉巫三峽未爲危

感懷詩  
前中書王

此詩心ハ人ノ心ノオソロケテタタノムコトノアヤウキコトヲ云也。上ノ

句ハ周易睽ノ卦上九ノコトハ載鬼一車トアル字ヲ用テ心ハ用

カヘテオソロキ鬼神ヲ一車ニノセシムルトモ人ノ心ノオソロキニ  
クラベテハ畏ルニタラスト云也。下句巫ノ三峽トイハ江州ニ三ツノ峽  
山アリ。其所ノ水イヒラスハヤキ也。文集大行路云巫峽水能覆  
舟若比人心是安流ト云リコノ心ニテ人ノ心ノタタニカタク危キコトハ  
三峽ノ水ヨリミサレリト云ナリ

楚三閭醒終何益周伯夷饑未必賢

橘侯

此詩ノ心ハ賢人ヲモ賢人トスル世ニコソハ賢人ヲ立ルカヒモアラタ  
賢人ヲモ用ヒサル世ニ只世トラレウツリテ。身ヲ全クセシハ方  
ジト云ナリ。サレハ屈原ガ獨醒タリシモ汨羅ニサレタルハカリニテ  
サレテ賢人ナルカヒモナシ。伯夷ガ武王ヲイサメシモ只餓死タルガ  
リニテ何ノ益カアリト云ナリ。楚三閭トハ三閭大夫屈原ガコト  
前ニ由タリ。廣州先賢傳ニ伯夷ハ遼西ノ孤竹ノ君子也。父死スル時  
兄伯夷ニ位ヲユツラスシテ弟叔齊ニユツリケレハ弟又兄ニユツルニ

父ノ仰ナリイカテカ背カントイヒテ。互ニ相ツリテ位ニツカス  
周ノ文王ハ徳タカキ人ニオハシニケリトキニテユキテツカ(奉リ  
ケリ。文王崩レ玉ヒテ武王位ニツキ玉ヒケリサテノチニ武王殷  
紂王ヲ討王フ事ヲ諫テ云ク。父ノ喪ニ軍ヲオコシ玉フコト。孝  
トスルニタラス。國ノ主トシテ人ノ地ヲトリタニテ食ル者ニアラスヤ  
人ヲ殺スヲタケシトシタニヘリ。アヘテツカラヘカラスト云テ首陽  
山ニカクテ終ニ餓死ニケリトイヘリ

何とて牙のいさぐさふらうらん事のあらじし 後人  
古今能智欲よいことぞやまことあり 雅後何ぞ何人なるんや  
もかく打さく。ガのいさぐさふらうるとまはれおらんごらあが  
死しと我らぞいさぐさふらう也やまことハ死しと  
世中いともかくてもある事なまじやもはてはるるが 蝦丸  
あぶらう志むのうりの世にまきふくあつても 賢達なるも固

事ありのふらうも 蝦丸も 終りあり 思ふおひさしきこと  
あつらあり。蝦丸ハ巻坂山ノ業にありしと也。延喜乃洋子と  
いふ説不用とそはち新百今集に入まより

あぶらうだまづくもあつ世中いともある月夜花を  
拾き集袖まよはし紳よあんとあひさしゆるる比月を方好りて  
くどくういさぐさふらうとあり。家集よハむらうものみどかれ  
とあつあつくろ比月をかくかくらりととまきくあぶらうとまき  
がた世は月をうらやまうこととある事と也。漢のまよとそへ  
てようあつ。あつらう濁世は月をうらやまうこととあつ。あつらう  
ひさしは世あつらうあつらうあつらうあつらうあつらうあつらう  
捕ふ乃八男。あつらうあつらうあつらうあつらうあつらうあつらう  
あり。あつらうあつらうあつらうあつらうあつらうあつらうあつらう  
よあつらうあつらうあつらうあつらうあつらうあつらうあつらう

つる。たかゆ。又信はる如き

慶賀

我入ノヨロビシノフルヲ云ナリ

叙佩曉趨雙鳳闕烟波夜宿下漁船

夜宿江浦

此詩文焦十六夜宿江浦聞元八改官因寄此詩トイヘリ。己樂天九江郡元九遷之時也。上句八か慶賀ノ意也。叙佩ト云クモ朝ニツカフル人ノアリサニ也。曉趨トハ忠臣ヲ驚雞聲内裏急心参ナリ。雙鳳闕トハ内裏也。下句ハ我身ノ愁ニナリ。烟波ヲテヒテ夜一ツノ漁舟ノ中ニ宿ストナリ。愁ノ意既知上句ヨリテ此部スレタリ

錢塘去國三千里二道風光任意看

章孝標及弟詩

此詩意上句錢塘六郡ノ名也。錢塘江ト云モ錢塘郡ニナリ。初學記ニナリ。其所故國ヲ去コトニ千里也。故云也。下句二道トハ二筋見エワタルホドヲ云也。コニオモク問ノ道スガフノ景氣ヲ心ニモテアソグ上云也。及弟ニテ悦喜ノ心アルウヘニ。此錢塘ノ風景ヲ見テ

タノムコノロナリ

想得江南讀父老因君鞭撻子孫多

感及弟章孝標

此詩意上句江南トハ地ノ名也。モロコシノ揚子江ヲヘダテ南ヲ江南ト云北ヲ江北ト云也。今汝ノ學問ヲヨクシテノカク及弟セシコトヲミテ。江南ノ諸人ノ父タルモノ子孫ヲムチウチハゲミテ學問ヲサセト想得タルトナリ。人ノ子ヲ學問セササ徒ニ唾嚙ノ愛ノニスヘキコトカト云心ヲフククタリ。鞭撻トハムチウツトヨムナリ。ウチサイナミテ教訓スルナリ

東部侍郎職侍中着緋初出紫微宮

賈在衡正通

此詩八粟田大臣在衡公ハハ式部丞ニテ叙爵ニ至フヲ賀シテ構正通ノ作ルナリ。四韻トモニ入り。コレハ發句也。吏部侍郎ハ式部少輔唐名也。或云是式部丞藏人ニテ叙爵ノ時ノ詩ナハ。吏部郎中上可有也。侍郎ハ誤歟云。侍中者藏人也。着緋ハ緋五位



衣也。紫微宮、内裏也。紫微、元天ノ名也。禁中ヲ天ニ比シテ  
尔云也。バジメテ五位ノ藏人ニ補テ。アケク袍ヲ着テ。参内シ  
ニシキコトヲホメタルナリ。着緋、文集十七ニ新授銅符、未着緋  
トナル字ヲ用タリ。一説ニ只今式部少輔侍中ヲ兼補ノ故、吏部  
侍郎ト云ト云リ、尤可用之ヲニヤ

銀魚腰底辭春浪綾鶴衣間舞曉風 朔胸也

此六胸句也。上句銀魚、上銀魚ノ袋也。殿上人ハ飾會ノ時、魚  
袋ヲ腰ニ付ス也。魚ノ袋、上六帶ノカザリナリ。帶ニ魚ノ形ヲ作リテ  
付タルナリ。以金銀作之也。魚上云ニツキテ此魚ハ浪ヲハナシテ  
アリト云也。或云唐土ニ虎ノ人ト變ジテ宮ヲナシケルニ魚袋ヲ  
工變セサリケレバ、悉ク魚袋ヲ用テ。虎ト人トヲ辨ヘ知テ宮ヲ  
スカレケリト云云。下句綾鶴トハアヤノ文ニ雲鶴ヲ織タルナリ。李  
嬌ガ百詠ノ注ニ出タリ。哥ハ雲鳥ノアヤトヨメリ。其紋ニヨリタル

鷺ノ曉風ニ吹カレテ動シ曉風ニ舞トイヘルナリ

花月窓交昔駐雲泥萬里眼今窮 同腰

此ハ腰句也。意ハ昔ハ同學ノ友トシテ一窓ウチニアリカドモ。今  
君ハ貴ク我賤クテ雲泥相隔タリト云ナリ。眼今窮トハ目モ及ヌ  
心ナリ

省躬還耻相知久君是當初竹馬童 同未

コトハ落句也。言ハ昔ヨリ人ヲモ知リ身ヲモ知ラレタルガ思ハ耻  
トキト云ナリ。君ハ其時幼カリレカドモ。今ハカク榮ヘ我ハ長年ナリ  
ニカトモ沈ミハテヌルト云ナリ

うきうきとむくハ神よほろろなりとらひハガリもあまらねる  
けあハた今乃あまらねるさど何まつもまらねる衣たもとゆさ  
よもそとつとまらねるさど何まつもまらねる衣たもとゆさ  
こらうひつ娘ハ神よはつとあまらねるさど何まつもまらねる衣たもとゆさ

ふふん。新勅撰契ぬよよ人不知入る

祝 慶賀上祝トカカリハ祝ハ押ナヘテノ祝ナリ。慶賀ハ人ノ

ヨロコビヲクベ身ノ上ノヨロコビヲ云フ云ナリ

嘉辰今日歡無極萬歲千秋樂未央

雜言詩 謝偃

コハ謝偃雜言ノ詩也。或ハ英明ノ作ト云云。江帥云此詩踏哥詩

也。聖武天皇ノ天平元年ニ始テ置中官ヲ行踏哥云云。此詩上ノ句

嘉辰今日ハ元正上巳端午等也。必明也。或云一人ノ御慶

賀ノ時ト云事アリ。學生トモノ列參スルナリ。又サルベキ大

臣ナドノ御慶賀ノ時モ有之列參シテ先此句ヲ誦ニ詠ス決

音ニ詠スサテヤカテタツナリ。コレハ各納四丈賜也云云

長生殿裏春秋留不老門前日月遲

天子万年保胤

此詩ハ天子万年ノ心ヲ作リ言ハ長生殿不老門ハ天子ノ居也

唐家ヨリ有之春秋留日月遲ハ万年ノ心ヲ云ナリ

若く代々ちよわちよふさぐれるのいさむりて昔乃むむを

右今の契乃執るは我まむハちよふと古今ハ昔ハ我まむハ

ちよふまうませむさぐれるのとあり。昔も云子代よや子代と

まねハ子代よあむと。後云やハてふ也。昔も云はむ世

よも世とくむさぐれり。乃のむかたるもむさぐれり。くま

むさぐれり。子代よとくむさぐれりてハ子代とよむさぐれり。昔もあり

さぐれるハ小る細るとも云。昔乃あつるとむむとともさぐれり。昔も

むさぐれり。ハ昔乃あつるとむむとともさぐれり。昔も

むさぐれり。ハ昔乃あつるとむむとともさぐれり。昔も

拾遺記乃執るは我まむハちよふと古今ハ昔ハ我まむハ

山ノこゝハ昔乃あつるとむむとともさぐれり。昔も

祠をわたり。ハ昔乃あつるとむむとともさぐれり。昔も

跡乃あつるとむむとともさぐれり。昔も

狂史記有けり事一とるごとくして三益のひそくよまらるることよ  
せり。三益山と名氏乃組林のひまれり。ひまれり。ひまれり。ひまれり。  
せり。ひまれのひまれり。ひまれり。ひまれり。ひまれり。ひまれり。  
ひまれり。ひまれり。ひまれり。ひまれり。ひまれり。ひまれり。ひまれり。

戀

爲君畫衣裳君聞蘭麝不聲喜爲君事容飭君見金翠無顔  
色

大行路借夫婦以諷 君君之不終也 白 此ハ文集ニ樂府大行路ノ文也。コノ  
文ノ心ハ臣君ニ合躰スル時ハ忠言諫言君ニ用ラレ。君ニ不容トキハ  
忠言カヘリテ不忠トナル。其心ヲ羨人ノ寵愛オトロヘテハ何ノ容  
飭モカヒナキニタトヘテ云リ。上句蘭麝トイハ蘭蕙ト麝香ト也  
ガ、ルイニヒキ香ヲ薰ズドモ君ノ心ニイラハカウハカラスト思フト  
云也。下句容飭トハカタキノカサリ也。粉ヲホドコニ代黛ヲカキナト  
スルヲ云ナリ。カクハスドモ君ハ我ヲ見ウトニヌバ無顔色トノ三思ヲ

ト云也。金翠トハ金ニテ鳥ヲ作りテ女ノ頭ノカサリニスルナリ

更闌夜靜長門闌而不開月冷風秋團扇香而共絶

遊仙屈文 長文成

此文ハ注ニ遊仙窟ニアリトイヘリ。然レ凡今ノ遊仙窟ニ此文ナレ可  
尋之上句更闌トハ夜ノフケタルナリ。長門トイハ文選曰長門矢歡  
宴云闌トハ寂靜也。シツカナリトヨメリ長門トサレテシツカナルサ也  
一本ニ長門闌トアリトチテトヨメリ下句團扇トイハミロキアラキナリ  
今ノウチワナリ。香トハ冥也寂也クラヒトヨムナリ。或云モノカケロ  
フ義也云云又シツカナル心ナリ。夏モテアソバヒ扇ノ秋風ニステラ  
レシコトヲ我身ノ幸セラレヌ心ニ比シテイヘリ

行宮見月傷心夜色夜雨聞猿斷腸聲

長恨嗎 文

此ハ文集第二十卷長恨哥ニアリ。唐玄宗皇帝蜀ノ中路ニテ  
楊貴妃ヲウケテヒ玉ヒテ。コヒカナレニ玉フ心ナリ。上句行宮トイハ  
旅ノ皇居也。下句巫陽ニ猿ヲキク心ナリ。前ニヒセリサラテモ

悲辛蜀道ノ旅ニイハニヤ貴妃ニ別王ヒテカケル月ヲ見夜雨ニ  
依ラキ、玉フ心オモヒヤルヘシ

春風桃李花開日秋露梧桐葉落時 同

コレモ同じ長恨哥ニアリ言ハ玄宗貴妃ニ別シ給テ後花ノヒラクル  
春ノ朝モ共ニモテアソビ事ヲ思ヒ木葉ノチル秋ノユフベモヒトリ  
ナカメサリシモノヲト思ヒテ時々ニツケテ忘レ玉ハス心ナリ

夕殿螢飛思消然秋燈挑盡未能眠 同

コレモ同長恨哥ニアリ言ハ夕ノ御殿ニ螢ナド飛ニガフヲ見ルツ  
ケテモイト思フニサレ心ナリ消然トハ愁ノ負也下句燈ノ消ルラ  
カ、ゲクテイモ子ラレス思ヒ明スト云心ナリ

南翔北嚮難付寒温於秋雁東出西流只寄瞻望於曉月 九

右丞相報吳越王書 後江相公 コレ八九條右丞相師輔公吳越王三報玉  
書ヲ後江相公カケル也言雁八年ゴトニ南ニカケリ北ニムカヘ

トモソヒニツケテモ寒カラフアタカラフ音信ヲモエセス月ノ  
東ニ出西ニ傾クニ付テヒトリ詠ヤリ心ヲイタシムルバカリナリト  
云也夫婦ノ中ノコトハアラ子トモ其マ戀慕スルコトハ六戀ノ  
所ニ入ラレタリ吳越王トハ一説ニハタル中ノ作リ名ヲイヘルナリ

聞得園中養花豔請君許折一枝春 戀紀

此詩ノ心ハ花ヲモテ佳人ニタテフルナリ人ノ聲ニナラシメテ作りテ  
送リケルニモ艷花豔トハ美人ノ深閨ニヤチ公テアルヲ聞及ダ  
リト云心ヲイヘリニ枝春ヲ折トハ美人アマタアル中ノ一人ヲエト  
イフコトナリ

寒閨獨卧無夫婿不妨蕭郎在馬蹄 和江侍郎

此詩註ニ江侍郎ハ江家式部少輔ナリケル人ナルニ實名可尋之  
羨濃國十市采女ト云ケル女文カニコクヨク詩ヲイヒケリ  
江侍郎ト云モノカレヲ思カケテ詩ヲ送リケル和詩也

寒手子ヤノウチニオツトモナクテヒトリ即タル身ナレバキタラシ  
トイハニヲサミタクベキニアラスト云也夫フ聳ゼイトハオツトナリ。聳ノ  
字常ハムコトヨメドモコ、ニテハオツト、云心ナリ。狂馬蹄トハ馬  
歩ニテヒツメニグルコトナリ。江侍郎馬ニノリテ来ルヲ云ナリ

貞女峽空唯月色窈娘堤蒼獨波聲

和源規杖子鰥  
居作之詩爲憲

此詩注源規杖子トイハ誰人哉若相規鰥字オトコヤモメトヨメリ  
然ハ鰥居トハオトコノ妻ナクテヒトリ井タルヲ云ナリ。彼規杖子  
鰥居ノ詩ヲククリタルニ爲憲ノ和シタル句ナルベシ上句貞女トハ二  
夫ニミエ又女ヲ云フ。貞女峽トハ所ノ名ナリ。貞女ニヨセテ云ナリ。  
今ハサヤウノ女ナクニテ只月ノ色ノミアリト云ナリ。下句窈娘  
堤ト云モ所ノ名也ゾヲ窈窕トアテタル娘ニヨセテ云ナリ。尤  
様ノ女ナケレバ其堤フリテ波ノコエノミシテモサビキナリサヲ  
云也畢竟彼規杖子がヒトリズミヲトフラヒタル心ナリ

わが意をゆきとあふくこととてはしるべきことなりとあふくを初め  
古今乃のちの意を思ふ意とらふ事ハあつたうとらふこととをわが  
意の果とてとべしと也云祇云あつたうなり此ハ一寸の意ハ月の成  
とてん極く意と心の意を思ふこととらふ極なり

さの先つてあふよあふふふふふとあふくを初め  
拾遺集乃のちの意を思ふ意とらふ事ハあつたうとらふこととをわが  
意の果とてとべしと也云祇云あつたうなり此ハ一寸の意ハ月の成  
とてん極く意と心の意を思ふこととらふ極なり

いふまゝとていふまゝに長月の光の月影をまらしてははるか如き  
古今乃のちの意を思ふ意とらふ事ハあつたうとらふこととをわが  
意の果とてとべしと也云祇云あつたうなり此ハ一寸の意ハ月の成  
とてん極く意と心の意を思ふこととらふ極なり

去方伊後回の

無常

觀身岸額離根草論命江頭不繫舟

羅維

此詩身ノアヤウキコトハ岸ノ上ノ根ナレ草ノゴトク命ノ定ナキコトハ江ノ舟ノツナガサルカコトトモ也心細キコトヲ云ルナリ

年年歲歲花相似歲歲年年人不同

宋之問

此詩唐詩遺響ト云書云劉希夷が作也カハ宋之間劉希夷ヲコシテ我作ト稱スト云ナリ古文前集六宋之間が作テ入タリ言花の色ハトシニカハルコトナレ人ハ不尔ゴゾミレ人ハナクナリテアラヌ人ニミカハルトノ心ナリ

蝸牛角上爭何事石火光中寄此身

對酒

此詩文集二十六ニアリ上句ハ本文也蝸牛角上各一國アリ左角ノ上ナル國ヲ蠃氏トイフ右ノ角ノ上ナル國ヲ蠻氏ト云此二國

ヨリク地ヲアラソヒテアヒタカフトイヘリ莊子ニアリ蝸牛ハカタツフリ也角似牛故蝸牛ト云也カレが角ハアタナルモノニテアルニゾレニアル國ノイドミタカフヲ云トアチキナキタトナルベシ此世ヲタトハ蝸牛ノ角ノゴトクナルニ何ノアラソフ心ツヤト也下句此身ノホトナキコト石火ノ光ノゴトトモノ心ナリアタニハタキコトヲ云ナリ

生者必滅釋尊未竟梅檀之烟樂盡哀來天人猶逢五衰之日

願文後 此願文ハ重明親王ノ北方ノ四十九日ニ江相公ノカケ也

生者必滅トハ經云夫生輒死云抱朴子云夫有始者必有卒有存者必有亡云釋尊ヲ齋林ニ葬リ奉ル時梅檀香ヲ焼火葬シカレ教主ノ如來モ無常ヲノカレ玉ハスト云也或云梅檀五衰ハ音對也千五也五衰トハ如彼忉利天雖快樂无極命終時五衰相現一頭上華鬘勿萎二天衣塵垢所着三寶中光滅四脇下汗出

四兩目數駒

天人ハミダキセヌモクナリ

五

不樂本所居是相現時夫春

属皆悉遠離ストイヘリ六波羅密經ニ出タリ天人ノタノヒアルモ

カクルウキメヲノガルコトナシトノ心ナリ

朝有紅顔跨世路暮為白骨持郊原

中隱願文 義孝少將

此詩无常ノ意ヲ作リ上句紅顔トイハ若キ時ウルハキ顔也

下句郊原トイハ文選注曰野外曰郊云云有人云此句冷泉院

御時麗景殿女御中隱ノ献義孝少將ノ作ニ願文也

雖觀秋月波中影未道春花夢裡名

无常後 江相公

此詩心上句維摩經云此身如水中月云云下句春花夢裡ハ莊

子胡蝶ノ夢ナトノ心ナル云一本ノ題註云贈歸山僧トアリ

世中成仁ノ事ト云人あまがくあまをく再乃あとの白浪海澄はゆ

万葉集又ハ下句あまがくあまをく再乃あとの白浪海澄はゆ

け集乃ト云秋乃んちゆ心傍都云々狂言傍都云々

さういほのう。慈心院より湖あにうのゆくとりて。少きま

乃けうとを吟詠せしとせ給ひて。さてハ心を修むるをさる人

るなりとて。廿八日乃秋十集乃云るまゝとありとて。い

袋紙アリノカスナリ。海澄ハ清浄ノ世ニ別當信名ハ竺如信

麻呂從四位上ト從者如斯クノカスナリ

末乃云もとのちづとや世中のとくれきたりたれりまらん

言傍心ハ遍照ノ事ニ家集乃洞書ハ世のちもまゝいづこ

らまてゆいづとあり。げうノ新古今集又入たふふ東都別云末

乃云とて。精の心をあり。まの事とて。あのをとらとて。ま

すこ。まの事とて。あのをとらとて。まの事とて。あのをとら

まの事とて。あのをとらとて。まの事とて。あのをとら

捨せし哀傷洞書ハ世中ノ事とて。あのをとらとて。ま

まの事とて。あのをとらとて。まの事とて。あのをとら

なりよかりとあり。秋のんをゆいぶうとてかゝるなく  
ありふらりとらん捨き集よまうつてまゝのよあまうふん  
こそ

白

闇夜猶行明月地人間却踏白雲天白賦 謝觀

異本ニ此句下リ。師説雪ノ景ヲ云トイヘリ

秦皇驚馬歎燕丹之去日烏頭漢帝傷曉燕武之來時鶴髮目

此賦白ト云事ヲ題トセリ。上句燕丹トハ戰國ノ時燕王ノ太子也  
名ヲ丹ト云也。秦ノ國ニ人質ニテ有ケル秦王ヲサケナカリ  
ケ六燕ノ國ヘカハラニトイヒケルヲ。秦王ヲサケリテ烏ノ頭ノ白  
ナリ。馬ニツク、オヒタラニトキ汝ヲユレテカヘサニト云リケリ。  
太子天ニアツキテ歎テ云ク。天我心ヲ察セヨ。地ニラシテ歎テ曰  
地我心ヲ推セヨ。ガク云トキ。カシラノ白キ鳥トビキタリテ。秦王

殿ノ上ニ居タリ。又額ニ角生タル馬官中ニハレリ來レリ。秦王大ニ  
驚テ丹ヲカヘス。丹カヘルコトヲ得タリ。史記ニ見タリ。下句漢帝  
トイフハ漢昭帝歟。上ノ詠史ノ所ニ注シタリ。傷曉トハイタミナケ  
ク也。燕武漢ノ使トシテ胡地ニ入テ。十九年ニシテカヘレリ。故ニ白  
頭トナレシラフ鶴髮ト云ナリ

銀河澄朗素秋天又見林園白露圓白發 句順

コレモ白ト云題也。此詩四韻トモニ入レリ。是發句也。上句銀河トハ  
アノ河也。秋ノ空ニ白クアキラカニニユルサ也。澄朗ハキヨクスマ  
ル良ナリ。素秋トハ素ハ白也。秋ハ白色ニカタドル時ナリ。故ニ素  
秋ト云下句モ白キコトナリ

毛寶龜歸寒浪底王弘使立晚花前胸句

コレハ胸句也。上句毛寶トハ字ハ碩真ト云人也。或人江ノホトリヲ  
行ニ白キカメノ甲ノ長サ五六尺ナルヲトリテモタル人アリ。彼人



ハレニテ買トリテ江ニハナチツ。後ニ石虎ノアタニ万騎ニテ  
アヒタカヒケルニモ寶サメラレテ江ニ入ケリ。カノ人石ヲフムコ、  
チレテヤウクウカヒテ岸ニ至リス。又アヤシニテカヘリニバカヒテ  
放ニ白亀ナリケリ。是ヲ蒙求ニモ寶白亀トアリ。晉書ニアリト云  
亀波トモニ白キ心ナリ。下句ハ陶淵明酒ヲコム人也。九月九日  
酒ヲ飲ニト思ニ酒ナカリキ東籬ホトリニ菊ヲツミテ夕々スニ  
ケハ江州ノ刺史王弘ト云人使ヲツカハシテ酒ヲ送リケリ  
其使白キ衣ヲキタリケリ。南史ニ見タリ。使モ花モ白キ心也  
晚花トハヲソキハナリ。菊ヲ云ナリ

蘆洲月色隨湖滿 念嶺雲層與雪連

腰句

コレハ腰句也。上句蘆洲トイハレノ生タルスサキナリ。月ノ光リモ  
湖モトモニ滿タル是白ノ心ナリ。下句念嶺トハ永濟註ニ云嶺州  
中央大雪山北无熱池ノ南ニアリ。西域記ニ見タリ。其山極テ

ニテ常ニ雪不消ト云也。雪雲トモニ白キ心也。信阿注ニ云文選注

曰蒼嶺雪四時不消白雲多在涪州云云

霜鶴沙鷗皆可愛 唯嫌年鬢漸皤然

末句

コレ落句也。言只白キ物ノオモシロキヲアゲテ是ハ皆モテアソビ  
ベシ我年老々鬢ノシロキノミゾイトノベキモノニテアルト云ナリ  
皤然トハ白キ貞ナリ

こころくーあたるおの月影よきうささけておの影あふ  
あろささささささささささささささささささささささささ  
けさささささささささささささささささささささささささ  
つり或はよけ朗詠集は又ハ公任ハのあつた多つり。秋ハ塔河院  
乃沙字ハ右忠乃皆帥ねささささささささささささささささ  
里来大納言乃自筆の朗詠集とてとの世ははささささささささ  
さささささささささささささささささささささささささささ

新撰朗詠集と撰ひ多かりしも又うそをうそまふり基後  
物居ち二条家へ和方の祖ゆゑ公任はとふとくまればその  
朗詠集の体とうつてより新撰志存ひためいつてう所ねに  
とくも綴換とありんべいの事しを修るべし但し朗詠  
の恒じしより得ざるありて和歌の強解をいづるは又  
公任のほつ位阿が元よ所ねにこそあつて強ぜり。是  
らのことふらしてうそも志ぬ後人ぞとてうて歌をそ  
またしむりするべし好く申之うそとぞ所説は信し

和漢朗詠集注卷十

信阿注跋云

應保元年辛巳十月五日相扶風痾終  
抄出之功畢

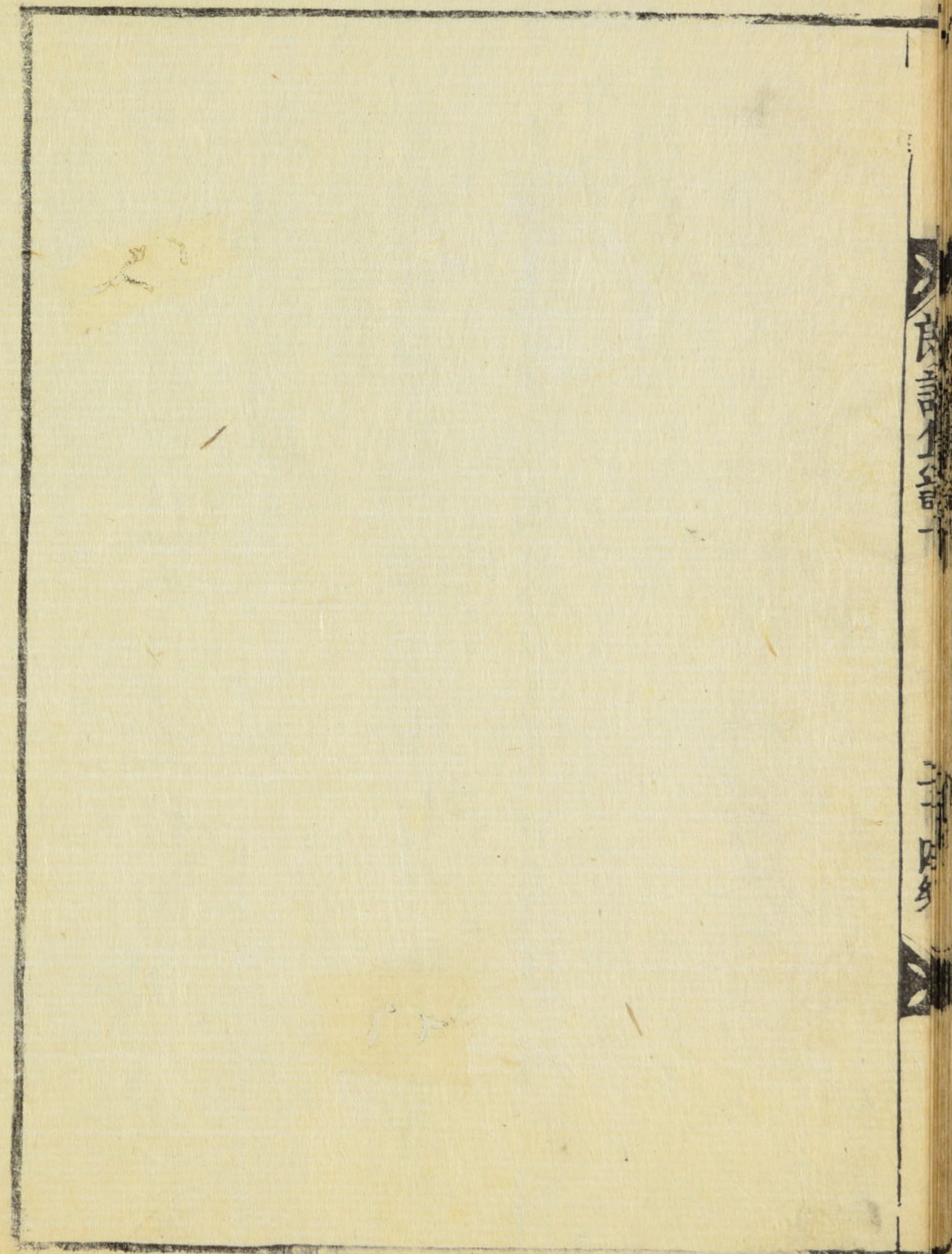
永濟注與書云

天文十七年戊申三月十六日書寫之  
不審雖多如本令書寫畢後見人宜爲  
再治而已

寛文十一 亥 曆林鐘吉日  
中野小左衛門板行

冬

又



良言集  
三

